

# 東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報

– 令和 5 年度 –

二〇二四年三月

2024.3

東大阪市

## はしがき

東大阪市は、大阪府の東部に位置し、生駒山で奈良県に隣接する、自然に恵まれた 50 万都市です。

生駒山地のふもとには、先人の残した貴重な文化遺産、遺跡が数多く眠っています。本市ではこれら遺跡・埋蔵文化財を保護、顕彰する立場から昭和 47 年に文化財課と郷土博物館を設置、開館しました。考古資料を展示する登録博物館としては大阪市に次ぎ、府下の衛星都市としては初めてであり、府下市町村の博物館施設の先駆けとなりました。平成 14 年 11 月には市立埋蔵文化財センターがオープンし児童や生徒、多くの市民に広く利用され、文化財の活用と普及に努めてまいりました。また、平成 29 年 7 月には国史跡河内寺廃寺跡が史跡公園として公開され、住民の憩いの場所として親しまれるとともに、東大阪市の歴史の深さや魅力を発信しています。

本書では、令和 5 年度国庫補助事業による発掘調査の成果と馬場川遺跡の調査・整理概要を掲載しています。遺存状態の良好な遺構・遺物に恵まれ、当遺跡の調査成果に新たな知見を加えることができました。限られた調査範囲ではありますが、各々の地域史の解明に大きく寄与できたものといえます。

これらは次世代に引き継ぐべき貴重な考古資料であり、本書が埋蔵文化財保護の報告書としてだけでなく、文化財の普及啓発冊子として市民の方々に広く読まれることを期待します。

最後になりましたが、調査の実施や報告書の刊行にあたり、個人・関係諸機関から多大なご協力を賜りましたことに深く感謝し、今後とも文化財保護にご理解とご支援をいただきまますようお願い申し上げます。

令和 6 年 3 月

東大阪市

## 目 次

### はしがき

### 目次・例言

第1章 令和5年度埋蔵文化財発掘調査・確認調査の概要	1
第2章 馬場川遺跡第24次発掘調査	5
第3章 馬場川遺跡F地点の縄文時代資料	17

### 例 言

- 1 本書は、国庫補助50%・市負担50%（総額6,286,000円）で実施した、個人及び零細事業施工による開発工事に伴う発掘調査ほかの概要報告書である。
- 2 本発掘調査は、調査原因に係る個人および法人の依頼を受けて、東大阪市人権文化部文化室文化財課が実施した。
- 3 現地の土色および土器の色調は農林水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』に準拠し、記号表示も同書に従った。
- 4 現地で出土した遺物の整理については、一部を株式会社文化財サービスに委託した。また、第2章の遺物整理の一部を西山集が行い、吉原智香、近野奈緒子が補助した。
- 5 本書の執筆は、次のとおりである。

第3章は、西山集、小泉翔太（奈良県立橿原考古学研究所）、奈良拓弥（大阪府教育委員会）、妹尾裕介（滋賀県立琵琶湖博物館）、木村啓章（大阪府教育委員会）で協議のもと、執筆、編集は小泉が行った。その他の章項および編集は西山集が行った。なお、第2章5）は株式会社パレオ・ラボに同定を依頼し、報告を取りまとめた。

第2章6）は白石哲也（山形大学）他によって分析を行った。

- 6 考古学用語については、佐原真・田中琢2002『日本考古学辞典』三省堂の表記に従った。

- 7 調査では、遺構名称に略号を使用したものがあり。略号は以下のとおりである。

SP	ピット・柱穴	SD	溝・濠・溝状遺構
SK	土坑	SE	井戸
SX	その他遺構		

- 8 現地調査の実施及び報告書作成にあたり、ご協力いただいた地権者の方々や関係諸機関に対し厚くお礼申し上げます。

第3章の整理作業については柳原麻子（大津市教育委員会）、田中美玖（大阪府教育委員会）、旭大輝、渡辺幸奈（京都大学大学院）のご協力を賜った。

## 第1章 令和5年度埋蔵文化財発掘調査・確認調査の概要

令和5年度の文化財保護法第93条及び第94条に基づく埋蔵文化財包蔵地での届出(通知)件数は、令和5年2月29日現在で届出304件、通知19件で合計323件である。届出(通知)にかかる工事内容の内訳は次のとおりとなる(0件の工事名は省く)。

個人住宅82件 分譲住宅65件 共同住宅29件 店舗3件 兼用住宅2件 その他建物20件  
道路4件 宅地造成4件 ガス17件 学校1件 電気60件 水道5件 下水道6件 河川1件  
工場1件 その他住宅2件 その他の開発2件

304件の届出(通知)の指導内容は、発掘調査54件、工事立会48件、慎重工事202件であった。

令和2年度が448件、令和3年度が456件、令和4年度が378件である。平成20年度以降は増加を続けていたが、平成24年度から減少し、その後は400から500件前後の件数を保ちながら横ばい傾向が続いている。今年度は400件に届かず、届出件数としては、近年で最も減少している。

東大阪市では、次ページ一覧表のとおり、個人又は零細事業主による個人住宅又は共同住宅等の建築に伴う確認調査及び発掘調査を令和5年度国庫補助事業として実施した。

その内訳は、個人住宅建設に伴う確認調査が11件(うち発掘調査2件)、零細事業主による共同住宅等の建設に伴う確認調査が2件(うち発掘調査0件)で、個人事業主による店舗等の建設に伴う確認調査が4件(うち発掘調査1件)、合計17件である(令和5年2月29日現在)。昨年度が14件であったため、件数は大幅に増加している。令和5年度の国庫補助事業では、個人住宅建設に伴って実施する確認調査の件数が最も多く、続いて個人事業主による店舗等の建設に伴う確認調査の件数という順序であった。

確認調査が必要となる工事の例としては、基礎工事に地盤改良工事又は柱状改良工事等を伴うものが挙げられる。それらの工事によって埋蔵文化財への影響が考えられることから、国庫補助事業として事前の確認調査を行い、埋蔵文化財保護行政等に必要なデータを得ているところである。

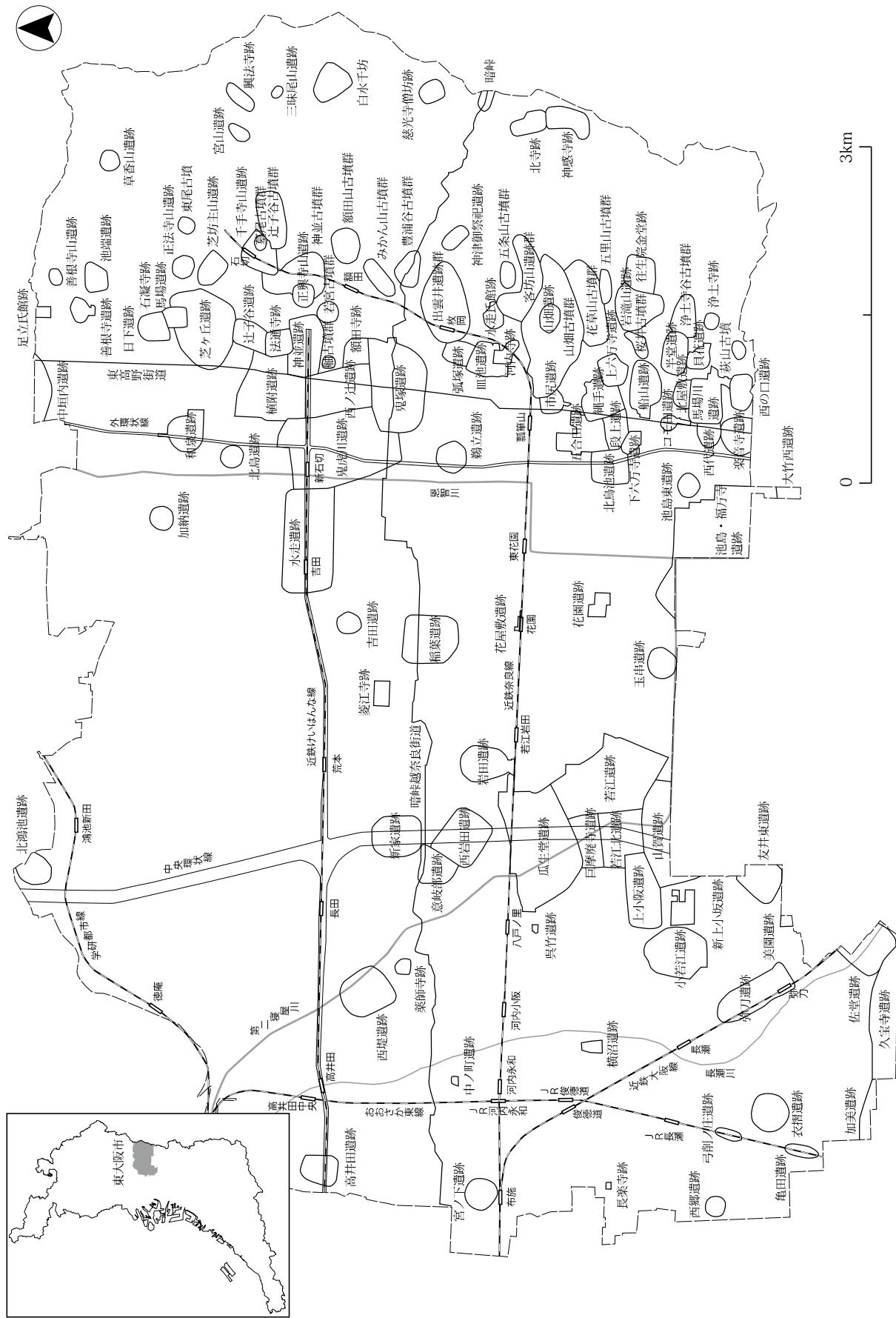
## 令和4年度国庫補助緊急発掘調査事業実施状況(補遺)

	調査事業名 (用途)	実施場所	担当	調査期間	調査面積	調査結果
1	山畠古墳群確認調査 (個人住宅建設)	上四条町2025番2、2025番9	西山	令和5年度3月7日	4m <sup>2</sup>	GL-0.5mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。

## 令和5年度国庫補助緊急発掘調査事業実施状況

	調査事業名 (用途)	実施場所	担当	調査期間	調査面積	調査結果
1	鬼塚遺跡確認調査 (個人住宅建設)	新町369番6の一部	西山	令和5年4月26日	4m <sup>2</sup>	GL-1.5mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
2	池島東遺跡確認調査 (個人住宅建設)	池島町一丁目2053番4、2053番14の各一部	山中吉原	令和5年5月24日	4m <sup>2</sup>	GL-1.1mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
3	瓜生堂遺跡確認調査 (個人住宅建設)	下小阪四丁目298番1	山中吉原	令和5年5月26日	8m <sup>2</sup>	GL-1.8mまで確認。弥生時代の包含層を検出したが、設計変更により工事実施。
4	植附遺跡 (個人による共同住宅建設)	西石切町三丁目323番4、323番1、325番1	平松吉原	令和5年6月9日	8m <sup>2</sup>	GL-1.3mまで確認。古墳～平安時代の包含層を検出したが、設計変更により工事実施。
5	小若江遺跡確認調査 (個人住宅建設)	小若江三丁目678番6	平松吉原	令和5年7月14日	4m <sup>2</sup>	GL-1.6mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
6	山畠古墳群及び花草山古墳群確認調査 (個人住宅建設)	上四条町1290番37	平松吉原	令和5年7月24日	2m <sup>2</sup>	GL-1.0mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
7	瓜生堂遺跡 (個人住宅建設)	若江北町一丁目39番29	平松吉原	令和5年7月31日	4m <sup>2</sup>	GL-1.7mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
8	西ノ辻遺跡及び鬼塚遺跡 (個人住宅建設)	南莊町1778番7、1778番8、1778番9	平松近野	令和5年8月2日	4m <sup>2</sup>	GL-1.2mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
9	皿池遺跡 (個人住宅建設)	本町460番2	西山平松	令和5年8月8日	8m <sup>2</sup>	GL-0.7mまで確認。遺物包含層を検出したが、設計GLからの掘削深度は包含層に抵触せず。後日鋼管杭工事の立会調査を実施後、工事実施。
10	植附遺跡 (個人住宅建設)	西石切町一丁目368番1、369番1	平松近野	令和5年9月1日	4m <sup>2</sup>	GL-1.5mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
11	芝ヶ丘遺跡 (零細事業主による分譲住宅建設)	北石切町1872番52	山中平松	令和5年10月23日	4m <sup>2</sup>	GL-1.7mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
12	五合田遺跡 (個人による共同住宅建設)	末広町927番の一部	平松	令和5年10月25日	8m <sup>2</sup>	GL-1.5mまで確認。古墳時代の包含層を検出し、本調査を行った(次年度報告)。

13	鬼虎川遺跡 (個人住宅建設)	弥生町1465番4	西山	令和5年12月1日	3.75m <sup>2</sup>	GL-1.8mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
14	若江遺跡 (個人住宅建設)	若江北町三丁目844番1 の一部	西山	令和5年12月1日	4m <sup>2</sup>	GL-1.5mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
15	芝ヶ丘遺跡 (個人住宅建設)	北石切町2243番6の一部	平松	令和5年12月22日	4m <sup>2</sup>	GL-2.0mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。
16	縄手遺跡 (個人住宅建設)	東大阪市南四条町747 番4、747番5の各一部	平松	令和6年1月11日	6m <sup>2</sup>	GL-1.5mまで確認。縄文時代～古墳時代の包含層を検出し、本調査を行った(次年度報告)。
17	若江遺跡 (共同住宅建設)	東大阪市若江本町三丁 目1033番1の一部	吉原	令和6年1月31日	8m <sup>2</sup>	GL-1.4mまで確認。埋蔵文化財検出せず。工事実施。



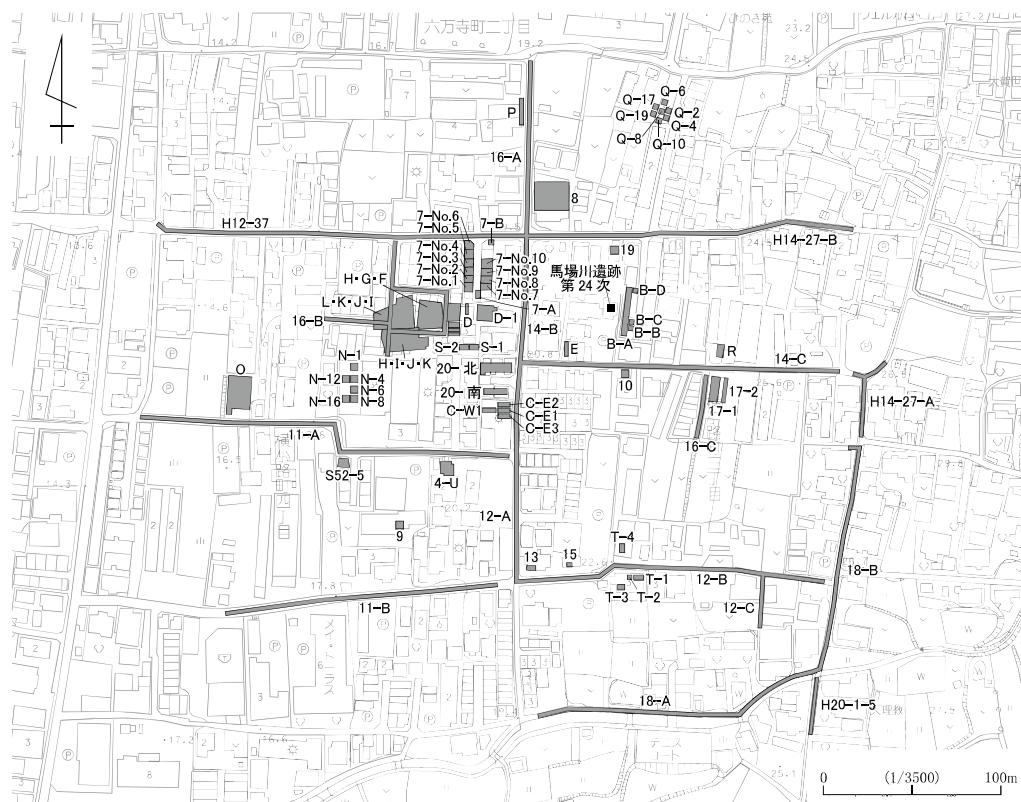
## 第2章 馬場川遺跡第24次発掘調査（確認調査）

### 1) はじめに

馬場川遺跡は東大阪市横小路町三～四丁目に所在する縄文時代中期末から古墳時代後期にかけての複合遺跡である。生駒山から流れる箕後川とその支流に南北をはさまれた扇状地扇端上に位置し、標高は約12～15mである。馬場川遺跡は、特に土偶・土製品・石棒・石刀類等の精神文化をあらわす、「第二の道具」が数多く出土する縄文時代晚期の集落遺跡として著名である。また、晚期前葉から中葉にかけての遺物が豊富で、東日本系や瀬戸内系の土器も一定量出土しており、近畿地方の縄文時代晚期における交流を考える上でも非常に重要な遺跡である。1969（昭和44年）に実施された1次調査では堅穴住居やそれに伴う炉跡、土坑墓、土器棺墓とともに豊富な遺物が出土しているが、膨大な量とその後の発掘調査の増加により、概要報告のみに留まっている。その後、1968（昭和43年）年に発掘調査を実施したB地点や1969（昭和44年）年に実施したC・D・E地点については有志による資料報告がなされている（奈良他2014・2015）。これまでに計24回の発掘調査が実施されている。

### 2) 調査の経過

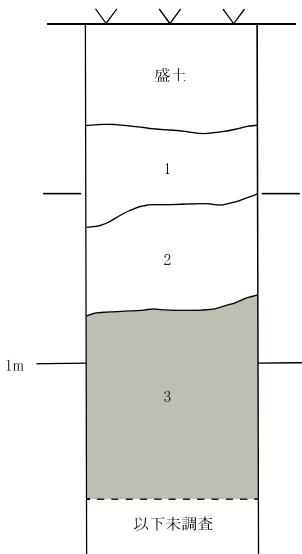
令和4年10月26日に埋蔵文化財発掘調査の届出が代理人より提出された。施工内容が柱状改良をともなうもので、埋蔵文化財への影響が懸念されたため、事前の確認調査が必要である旨を届出者に通知した。令和4年11月7日に確認調査を実施し、多量の縄文土器を含む遺物包含層を検出した。この結果に基づき代理者を通して協議が行われ、保存について協議を重ねた結果、埋蔵文化財を損壊しない施工内容にする設計変更を行うことにより埋蔵文化財の保存をはかることとなった。なお、調査面積2.25m<sup>2</sup>の確認調査において濃密な縄文時代包含層を検出し、コンテナ2箱分の縄文時代資料



第1図 調査地位置図

表1 馬場川遺跡既掘調査概要

調査地	次数	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	概要
C・D・E・F・G・H・I・J・K・L	1	S.44.7.10~9.18	1,000	堅穴建物（滋賀里Ⅲa～篠原式）・埋設土器（滋賀里Ⅲa式）・土坑・炉跡（滋賀里Ⅲa）・ピット・溝・流路・繩文土器・土偶・土製品・石鎌・石棒・石刀・石斧・敲石・石皿
N・O・P・Q・R・S	2	S45.7.18~8.28	1,000	堅穴建物（滋賀里Ⅰ～Ⅱ式）・土壙墓（滋賀里Ⅲa～篠原式）・土坑・ピット・繩文土器・土偶・土製品・石鎌・管玉・白玉・敲石・石皿
D1・U	3	S49.8.5~8.27	120	繩文土器（宮滝式・滋賀里Ⅰ式・篠原式・滋賀里Ⅳ式）・土偶・土製品・石鎌・石斧・石錐・石刀・磨石・石皿
Uの拡張	4	S50.2.14~2.17	33	土製品
Oの拡張・T	5	S50.8.2~S51.3.31	205	繩文土器（北白川C式・中津式）・土製品・石鎌・石錐
G・H・I・J・K	6	S55.10.23~11.5	500	堅穴建物・土坑・ピット・繩文土器（滋賀里Ⅰ～篠原式）・土偶・土製品・石鎌・石斧・石棒・石刀・敲石・石皿
7-A・B	7	H5.2.22~2.26	10	土坑・繩文土器（滋賀里Ⅰ～篠原式）・石鎌・石斧・石刀・磨石・石皿
8	8	H5.10.18~11.29	327	繩文土器（滋賀里Ⅰ～篠原式）・土偶・土製品・石鎌・石刀・磨石・石皿
9	9	H5.5.9~5.13	15.73	繩文土器
10	10	H7.12.4~12.7	13.5	繩文土器（晚期中葉）
11-A・B	11	H11.8.23~H12.2.22	371	繩文土器（北白川C式・中津式・宮滝式・滋賀里Ⅱ式）・石刀・石錐・石斧・石皿
12-A・B・C	12	H13.5.1~10.12	279	繩文土器（後期・滋賀里Ⅰ～Ⅳ式）・石斧・敲石
13	13	H14.11.6~11.27	30	土壙墓（篠原式）・溝（篠原式）・繩文土器（滋賀里Ⅱ式・篠原式）・石鎌・石錐・石刀・白玉・磨石
14-A・B	14	H14.5.22~11.14	341	繩文土器（篠原式）
15	15	H15.3.26	2	繩文土器（滋賀里Ⅲa式・篠原式）・石斧
16-A・B・C	16	H16.5.6~7.26	298	繩文土器
17-1・2	17	H17.9.12~9.22	77	土製品・石鎌・磨石
18-A・B	18	H17.5.9~8.31	274	繩文土器（篠原式）
19	19	H18.6.13	1.4	繩文土器（滋賀里Ⅱ～Ⅳ式）・石鎌・石棒・磨石
20-北・南	20	H21.9.17~10.31	184.7	土壙墓（篠原式）・土坑（篠原式）・埋設土器（篠原式）・炉跡・溝・流路・ピット・繩文土器（谷滝式・北白川下層Ⅲ式・元住吉山Ⅰ～滋賀里Ⅳ式）・土偶・土製品・石鎌・石錐・石棒・石刀・石劍・石斧・台石・磨石・敲石・石皿
A			表探	繩文土器（宮滝～篠原式）・石鎌・石錐・石棒・石斧・磨石・石皿・石刀・石皿
B		S43.5		繩文土器（宮滝～滋賀里Ⅳ式）・土製品
S52-5		S52.5		繩文土器（北白川C式・宮滝式・滋賀里Ⅰ式）
7-Na1～10		H4.11.18・26 H4.12.8～14	22	繩文土器・土偶・石鎌
H12-37		H12.6.4～7.25	287	なし
H14-27		H15.6.9～10.2	410	なし
H20-1-5		H21.12.18～2.26	29.5	なし
21	21	H25.9.6～9.10	18.2	繩文土器（篠原式）・土偶
22	22	H25.8.14～9.12	95	繩文土器（元住吉山Ⅰ式・滋賀里Ⅲa式・篠原式）・台石
23（O地点の再発掘）	23	H31.1.12～2.13	28	繩文土器（北白川C式・中津式）
24	24	R4.11.7	2.25	繩文土器（滋賀里Ⅱ～篠原式・大洞B2式）・石刀



第1層:黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂  
第2層:灰色(N4/0)中粒砂混じりシルト  
第3層:暗灰色(N3/0)中礫混じりシルト

が出土したため、確認調査を24次発掘調査として出土遺物の報告を本章で行うこととする。

### 3) 基本層序

盛土

第1層 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗粒砂

第2層 灰色 (N4/0) 中粒砂混じりシルト

第3層 暗灰色 (N3/0) 中礫混じりシルト【繩文～弥生時代遺物包含層】

第3層より繩文時代晚期前葉を主体とする遺物が出土した。平面及び断面を精査したが遺構を確認することはできなかつた。B地点の調査区B-Aの繩文時代後期から晚期の遺物包含層である第6・7層が24次調査における第3層に符号すると考えられる。

第2図 馬場川 24次（確認調査）

東壁柱状図

### 4) 出土遺物

遺物はコンテナ2箱分が出土した。全て第3層からの出土で、縄文土器、弥生土器、石器、石製品、動物遺体が出土した。本報告では、B～E地点の報告（奈良他2014・2015）をもとに一部改変された次章のF地点における分類を援用した。分類の詳細については次章を参照されたい。

#### 土器

##### 深鉢C類（1～2）

口頸部界が内屈し、外反しながら立ち上がる。1はゆるく外反する口縁部に竹管による1条沈線がほどこされる。2は胴部から頸部にかけて内湾し強く屈折して頸部が外反するが、口縁部は欠損する。外面を巻貝条痕によってナナメ方向に調整する。いずれも滋賀里II式に比定され、生駒西麓産である。

##### 深鉢G類（3～6）

口縁部が弱く内屈し、頸部に強いナデをほどこしゆるく立ち上がる。二枚貝による外面調整をほどこす。内面は工具または指ナデ調整をおこなう。3は口縁端部を乾燥しないうちに強くナデすることで粘土がはみ出す。生駒西麓産。4は頸胴部界に1本の強いナデをほどこし、口縁部外面はヨコ方向の二枚貝条痕調整をほどこす。5も同様に頸胴部界にナデをほどこすが、やや弱い。6は頸部のナデ直上からゆるく内湾しながら口縁部にいたる。内面調整はヨコ方向に二枚貝条痕調整をおこなったのちに口縁部上半をナデ消す。滋賀里IIIa式に比定される。いずれも生駒西麓産である。

##### 深鉢H類（7～17）

口縁部と胴部界にヨコ方向の強い指ナデをほどこす。奈良県秋篠・山陵遺跡においてまとまって出土した滋賀里IIIa式秋篠段階（岡田1998）のものである。内面に明確な稜をもって頸部が屈曲し、甕形を呈する。外面調整は二枚貝条痕を主とし、胴部にケズリ調整をほどこすもの（8・12・16）が散見される。11は口縁部が波状を呈すると考えられ、また内面は丁寧なミガキ調整による精緻なつくりである。10・13も内面にミガキ調整をほどこす。13・14・17以外は生駒西麓産である。

##### 深鉢J類（18～24）

砲弾形の胴部に外反した口縁部をもち、甕形を呈する。18は頸部が剥離しているが、口縁部がゆるく外反し、S字型に内湾して胴部に連繋すると思われる。18以外は口縁部～胴部上半にヨコ方向の二枚貝条痕調整をほどこし、内面はナデ調整である。19は板状工具による調整痕が認められる。これらは篠原式古段階に比定される。18は口縁部の外面調整がナデによることから篠原式中段階に下る可能性がある。19・20・24は生駒西麓産である。

##### 底部（25～28）

深鉢の底部である。25・26は二段凹み底で、27・28は凹み底である。26は内外面にナデ調整をほどこし、一部指オサエにより成形する。25・28はケズリ調整をほどこす。25・26は生駒西麓産。

##### 浅鉢A類（29～34）

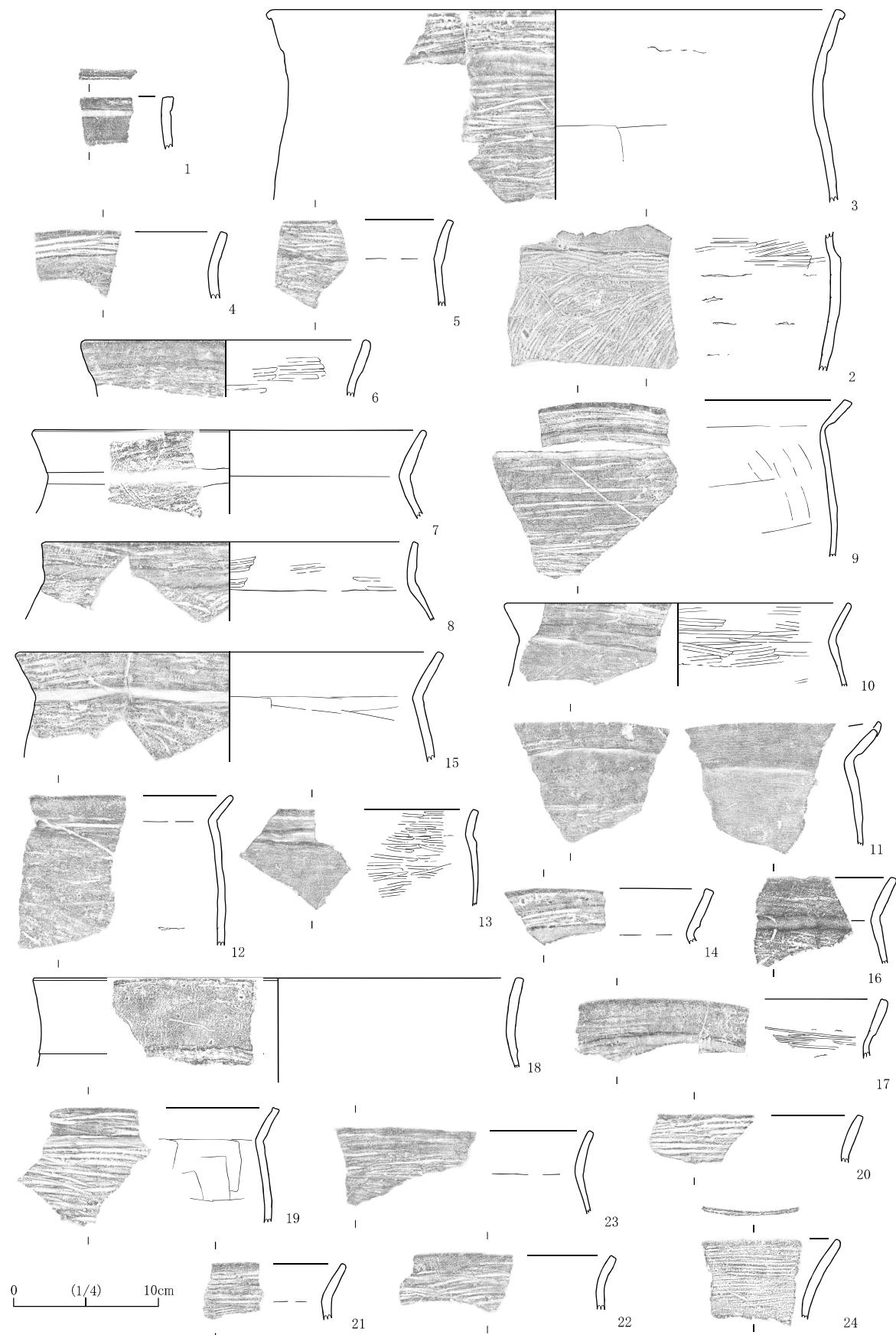
黒色磨研系浅鉢で、口縁部に沈線をほどこした沈線波状口縁の資料が多い。波状口縁は口縁部が直口するA1類と内湾するA2類に細別される。29は半載竹管による細い沈線を施文する。三角状文か。30はA2類で、波状口縁部に棒状工具による2本沈線をめぐらす。32は皿状胴部から口縁部に繋がる頸部外面が肥厚する。34は内面に沈線によるえぐりをもつ。

##### 浅鉢J類（35）

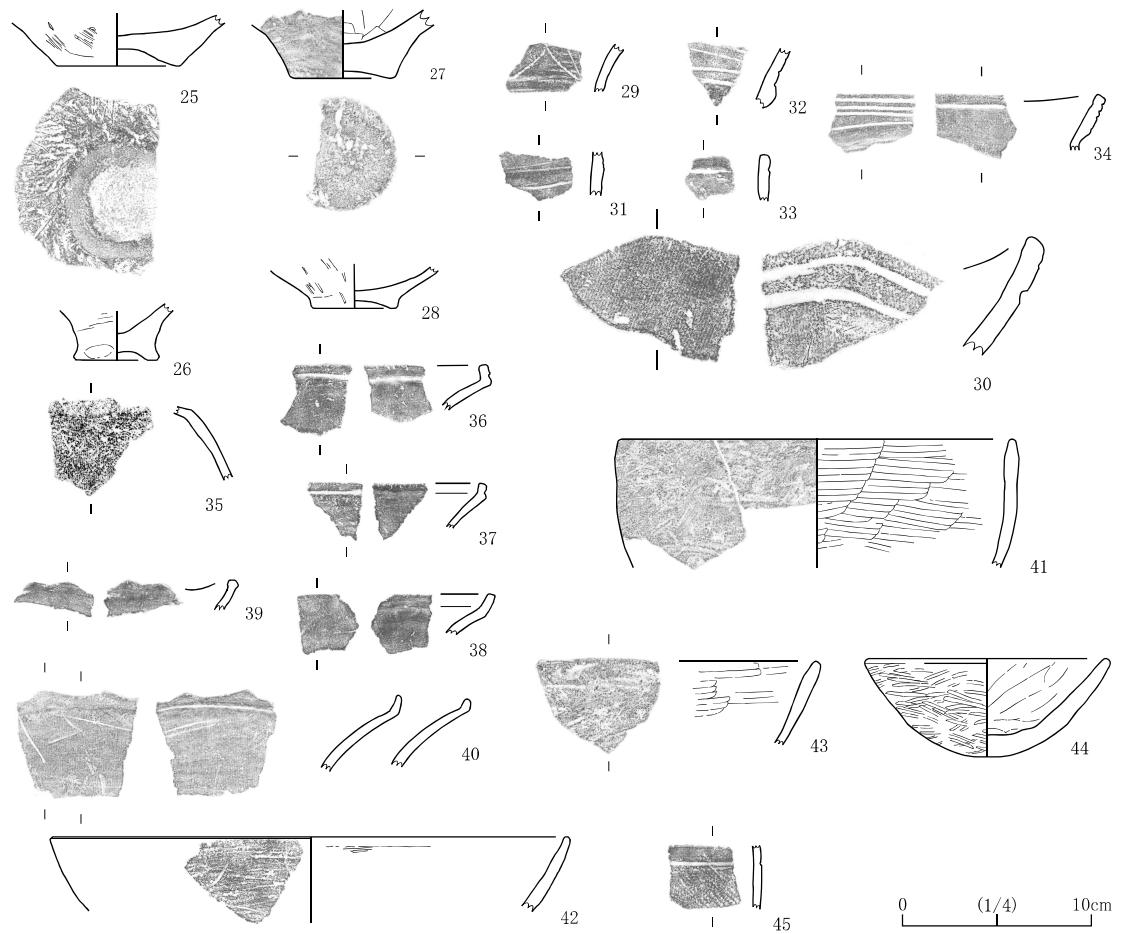
体部から短く外屈する頸部まで残存する。体部は球形または算盤状を呈する。

##### 浅鉢K類（36～40）

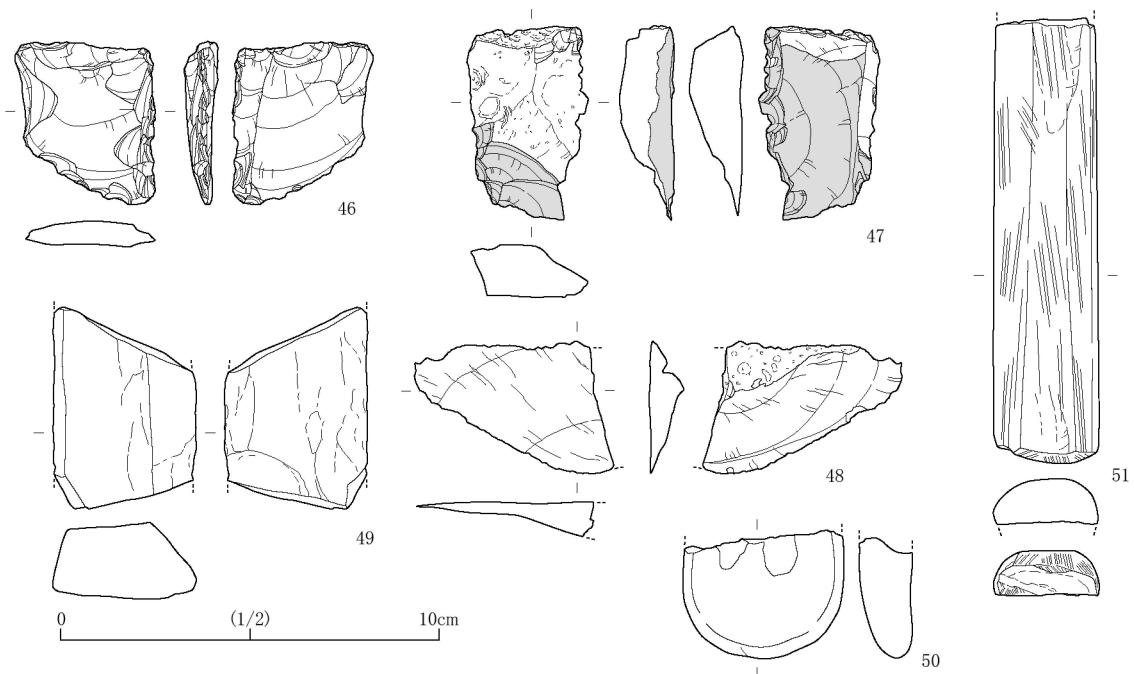
36・37は短く屈曲する口縁部に1本沈線が施文される。K2a類。38は沈線をもたず、屈曲もゆるやかである。K5類。39・40はリボン状突起がつく。K7類で、ミガキが丁寧で口縁端部が内面



第3図 馬場川24次 出土遺物1 縄文土器 深鉢



第4図 馬場川24次 出土遺物2 繩文土器 底部・浅鉢



第5図 馬場川24次 出土遺物3 石器・石製品

に玉縁状を呈しながら内屈して突起をともなう篠原式期に散見されるものである。39はB状突起であろう。40は口縁部の短い屈曲が明瞭に残り、玉縁状を呈していないため篠原式古段階のなかでも古相であると考えられる。

#### 浅鉢N類 (41～44)

41は口径と器高が等しく椀状を呈する。42・43は皿状の器形で、口径が器高より大きい。44は小型の浅鉢である。外面はヨコ方向に条痕調整をほどこしたのち、ナナメ方向に再度調整をおこなう。内面はナデ調整をほどこす。

#### その他土器 (45)

鉢の胴部で、1条沈線により縄文施文部分を区画する。縄文地は二段右撫りの複節縄文である。内外面は細かいミガキ調整をほどこす。東北地方晩期前葉の大洞B2式に比定される。

#### 石器

46は楔形石器である。46は剥片を直接両極打法により側縁の両側を二次加工し、刃部を作り出す。47は削器である。原礫をうち割ったもので、焼かれて割れた可能性がある。いずれも二上山産サヌカイト製。48は剥片である。49は加工痕の残る石製品である。砂質片岩製。50は擦痕の残る石製品であり、砂岩製。51は断面形状が橢円形となる石刀である。全体を研磨しているが、裏全体が欠損している。故意かどうかは不明である。また、欠損後に再度研磨した痕跡が認められる。頁岩製。

#### 5) 馬場川遺跡 24次調査出土 動物遺体

すべて第3層から出土し、時期は縄文時代晩期前葉～中葉と考えられる。最も多かったのがイノシシである。左の下顎犬歯をはじめ、上腕骨、距骨、中手または中足骨の破片が出土している。上腕骨、距骨については、接合はできなかったが、骨の大きさなどからすると、同一個体と考えられる。イノシシ以外ではニホンジカの角破片が11点出土した。加工の痕跡は見られなかったが、おそらく骨角器素材として使用されたと考えられる。その他、フグ科の右前上顎骨が11点確認できた。

表2 馬場川遺跡 24次調査出土 動物遺体同定結果

遺跡	次数	層位	分類群	部位	部分	左右	個数	備考
BBG	4-220	第3層	ニホンジカ	角	角幹部	不明	1	
			イノシシ	上腕骨	遠位端	左	1	
			イノシシ	上腕骨	遠位端	右	1	
			イノシシ	距骨	外側	左	1	
			イノシシ	中手または中足骨	遠位端	不明	1	
			哺乳綱	頭骨	破片	不明	2	
			哺乳綱	四肢骨	破片	不明	6	陸生哺乳類
			イノシシ	下顎犬歯	歯冠部	左	1	
			イノシシ	上腕骨	遠位部	右	1	
			イノシシ	距骨	内側	左	1	
			フグ科	前上顎骨	破片	右	1	



図 6 馬場川遺跡 24 次調査出土 動物骨 1: 鹿角 2: イノシシ左下顎犬歯  
3: イノシシ右上腕骨 4: イノシシ左距骨 5: フグ科右前上顎骨

## 6) 馬場川遺跡 24 次調査出土土器の放射性炭素年代測定の結果報告

白石哲也・妹尾裕介・西山集・武山美麗・森谷 透・門叶冬樹

### はじめに

今回、筆者らは東大阪市馬場川遺跡 24 次調査トレンチ包含層出土土器からサンプリングした炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。馬場川遺跡では、縄文中期末から弥生後期までの遺構・遺物が検出されている。今回、当該地域において年代測定の蓄積が少ない縄文晩期の土器に対して、分析を実施した。なお、本報告は白石・妹尾・西山が土器の選定・型式認定・サンプリングを行い、放射性炭素年代測定については山形大学 AMS センター（センター長：門叶冬樹）が実施した。

### 1. 試料の概要

今回分析した試料は、馬場川遺跡 24 次調査のトレンチ包含層から出土した土器の外面に付着した炭化物 1 点である（表 3・図 7）。土器は、トレンチ第 3 層より出土した深鉢の頸～胴部の破片である。口縁部は欠損している。頸胴部界で内屈し、ゆるく外反した頸部を作出する。外面胴部はナナメ方向に、内面頸部はヨコ方向に巻貝条痕調整をほどこす。頸部が外反したまま口縁部に連繋するのか、頸部からまた内屈して二段屈曲するいわゆる宮滝型の器形を呈するのかは判断しかねるが、共伴した遺物が滋賀里 III a 式を主体とする点、その中で滋賀里 II 式が一部混ざる点、内外面に巻貝条痕調整をほどこす点から滋賀里 I 式までは上がらず、縄文晩期前葉の滋賀里 II 式に比定した。

### 2. 分析の方法

今回、1 点の土器付着炭化物について、加速器質量分析装置（山形大学 AMS センター、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて放射性炭素濃度を測定した。表 3 に同位体分別効果の補正に

用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行った放射性炭素年代、較正曲線データ (IntCal20:Paula J Reimer et.al 2020) を使用して放射性炭素年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。

### 3. 結果と考察

今回の試料は、土器型式では滋賀里 II 式の時期（縄文時代晚期初頭）である。滋賀里 II 式は東大阪市内では鬼塚遺跡で 1 点測定されており、1270 ~ 1015calBC (2  $\sigma$ ) の値が得られている。また、滋賀県赤野井湾遺跡や同竜ヶ崎 A 遺跡でも複数測定され、概ね 1315 ~ 1125 から 1135 ~ 1010calBC (2  $\sigma$ ) となっている（西本 2006・春成 2008）。ただし、鬼塚遺跡の資料は、II 式よりもやや新しい可能性もあり、滋賀里 II ~ III a と考えられるため、滋賀里 II 式の暦年代範囲は前 13 C 前半～前 12 C 後半頃と想定される。

今回の結果を見ると、2  $\sigma$  の暦年代範囲で 1228BC-1105BC (86.8%) の年代値が与えられており、比較的整合性の高い値が得られたと考えられる。

本研究は、科学研究費補助金 (20H01369、23K12306) の研究成果の一部を含む。

表 3 測定試料の結果

NO.	地域	遺跡名	遺構	層位	試料種類	試料番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	14C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲 (cal BC/AD)		測定機関	備考
									1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲		
1	東大阪市	馬場川24次	トレンチ	包含層	種類:土器外表面着灰化物 状態:dry	YU-19105	-26.67 $\pm$ 0.16	2951 $\pm$ 21	1208BC (68.3%) 1125BC	1257BC (1.7%) 1246BC 1228BC (86.8%) 1105BC 1100BC (3.9%) 1077BC 1072BC (3.0%) 1055BC	山形大学AMSセンター	



図 7 対象土器

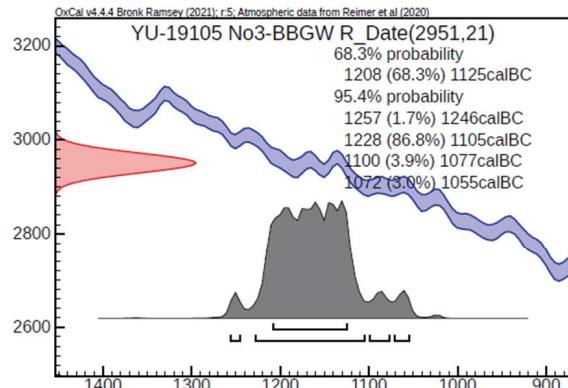


図 8 測定結果

### 7) まとめ

馬場川遺跡第 24 次発掘調査において出土した資料を科学的分析もふまえながら概観した。本調査地では、確認調査 2.25 m<sup>2</sup> という狭隘な状況においても包含層から多様な遺物が良好な状態でまとまって出土した。

調査地点は既に報告されている昭和 44 年に調査した B 地点のすぐ西側に隣接する。土器資料をみると、深鉢は滋賀里 II 式が数点、篠原式古段階が一部出土しているが、滋賀里 III a 式が単純に近い様相で主体を占めている。一方で、浅鉢は九州地方の影響下に成立した黒色磨研系浅鉢の古相から篠原式段階まで幅があり、深鉢との時期相が一致しない。隣の B 地点の様相を概観すると、滋賀里 II 式が主体的で、樅原式文様土器が一定確認できるなど、24 次調査地点の方が B 地点より一段階新しい点

が指摘できる。また、深鉢類と浅鉢類の時期相が一致しない傾向はこれまでの報告においても言及されてきているところであり、次章のF地点においても同様の傾向が認められる。

いずれも包含層資料であり包含層も約50cmの厚さがあるため、堆積期間が広い幅をもつ可能性がある。よって遺物資料のみでの遺跡の性格や動向に言及することは非常に困難であるが、これまでの資料報告や調査履歴から地点ごとに時期差があらわれるという遺跡の傾向は補強できたと考える。また、小規模な調査においても多様な遺物を検出し、その中で大洞式土器が確認できた点も大きな成果といえる。大規模の面的な調査による遺構一括資料が待たれるが、今後も膨大な資料群の整理によって近畿地方の縄文晩期集落を代表する遺跡としての評価をあたえていくべきと考える。

#### 謝辞

本章を作成するにあたって、上峯篤史氏（南山大学）、岡田憲一氏（奈良県立橿原考古学研究所）、中村豊氏（徳島大学）、松田順一郎氏、宮里修氏（高知大学）、宮地聰一郎氏（九州歴史資料館）の各氏にご助言を賜った。また、整理する過程で関西縄文文化研究会令和5年12月例会において報告する機会にめぐまれ、多くのご助言・ご指導をいただいた。記して感謝の意を表す。

#### 【参考文献】

- 泉 拓良 1989 「西日本磨研土器様式」『縄文土器大観4 後期・晩期・続縄文』小学館
- 伊藤雅和・岡田憲一編 2003 『西坊城遺跡II』奈良県文化財調査報告書90集 奈良県立橿原考古学研究所
- 岡田憲一 1998 「第4章調査のまとめ 第2節遺物のまとめ 1.1期縄文時代（滋賀里IIIa式段階）の遺物」『秋篠・山稜遺跡』奈良大学文学部考古学研究室発掘調査報告書17集
- 岡田憲一 2000 「西日本縄文後期後葉土器編年序論」『向出遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書55集
- 岡田憲一 2003 「滋賀里式再考—西日本縄文晩期土器様式の構造転換—」『立命館大学考古学論集III-1』立命館大学考古学論集刊行会
- 岡田憲一 2011 「2節 近畿地方縄文晩期土器編年と奈良県下基準資料」『重要文化財 橿原遺跡出土品の研究』奈良県立橿原考古学研究所
- 京都市埋蔵文化財研究所 2010 「第6章 自然科学的分析の成果」『上里遺跡I-縄文晩期集落遺跡の調査-』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第24冊 京都市埋蔵文化財研究所
- 菅原章太・奈良拓弥 2011 「第2章 馬場川遺跡第20次発掘調査（遺物・総括編）」『東大阪市埋蔵文化財発掘 調査概報—平成22年度-』東大阪市教育委員会
- 坪井清足 1951 「滋賀県大津市滋賀里遺跡」『日本考古学年報』1号 日本考古学協会
- 奈良拓弥・上峯篤史・妹尾裕介・木村啓章・小泉翔太・河本純一 2014 「馬場川遺跡B地点の縄文時代資料」『大阪文化財研究』第44号
- 奈良拓弥・妹尾裕介・木村啓章・小泉翔太・旭大輝・河本純一 2015 「馬場川遺跡C・D・E地点の縄文時代資料」『大阪文化財研究』第46号
- 西本豊弘 2006 『新弥生時代のはじまり 第1巻弥生時代の新年代』雄山閣
- 春成秀爾 2008 「近畿における弥生時代の開始年代」『新弥生時代のはじまり 第2巻縄文時代から弥生時代へ』雄山閣
- 藤井直正他 1970 『馬場川遺跡I』東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報4 東大阪市教育委員会

家根祥多 1981 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究 4 縄文土器 II』雄山閣

家根祥多 1994 「篠原式の提唱—神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討—」『縄文晩期前葉—中葉の広域編年』平成 4 年度科学研究費補助（総合 A）研究成果報告書

1) C Bronk Ramsey, BAYESIAN ANALYSIS OF RADIOCARBON DATES Radiocarbon, 51 (1) , 337-360 (2009)

2) Paula J Reimer, William E N Austin, Edouard Bard, Alex Bayliss, Paul G Blackwell, Christopher Bronk Ramsey, Martin Butzin, Hai Cheng, R Lawrence Edwards, Michael Friedrich, Pieter M Grootes, Thomas P Guilderson, Irka Hajdas, Timothy J Heaton, Alan G Hogg, Konrad A Hughen, Bernd Kromer, Sturt W Manning, Raimund Muscheler, Jonathan G Palmer, Charlotte Pearson, Johannes van der Plicht, Ron W Reimer, David A Richards, E Marian Scott, John R Southon, Christian S M Turney, Lukas Wacker, Florian Adolphi, Ulf Büntgen, Manuela Capello, Simon M

Fahrni, Alexandra Fogtmann Schulz, Ronny Friedrich, Peter Köhler, Sabrina Kudsk, Fusa Miyake, Jesper Olsen, Frederick Reinig, Minoru Sakamoto, Adam Sookdeo, Sahra Talamo THE INTCAL20

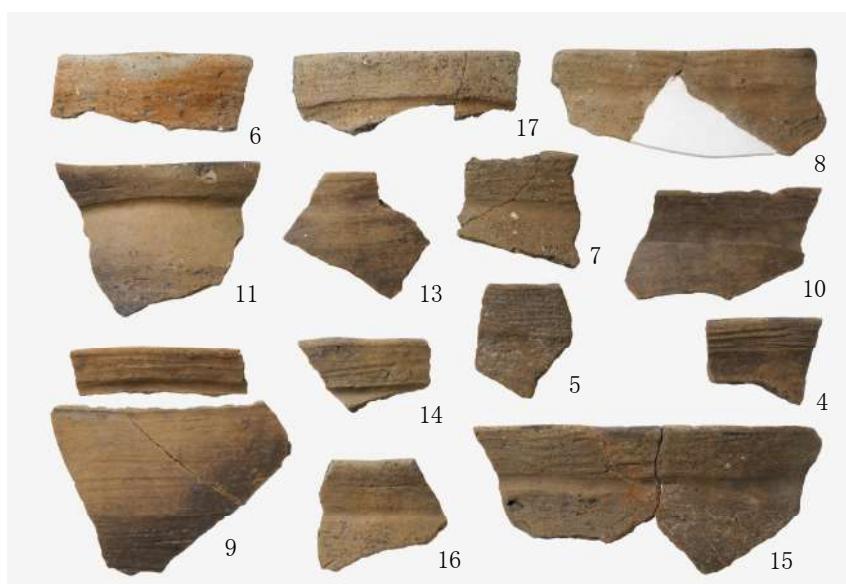
NORTHERN HEMISPHERE RADIOCARBON AGE CALIBRATION CURVE (0-55 CAL kBP), Radiocarbon, 62, 1-33 (2020)

図版1 馬場川遺跡第24次発掘調査 遺物

1. 出土遺物 深鉢



2. 出土遺物 深鉢



3. 出土遺物 深鉢



図版2  
馬場川遺跡第24次発掘調査  
遺物



1. 出土遺物 底部・浅鉢



2. 出土遺物 浅鉢



3. 出土遺物 石器・石製品

### 第3章 馬場川遺跡F地点の縄文時代資料

#### 1) はじめに

馬場川遺跡F地点は、1969（昭和44）年に実施された第1次調査の調査地点の一つである。F地点からは晚期前半を主体とする縄文時代の遺物が多量に出土した。本章では、F地点出土の縄文時代資料のうち、縄文土器337点、土製品24点を報告する。

馬場川遺跡では、1969（昭和44）・70（昭和45）年度の二か年にわたり、東大阪市が国庫補助事業として発掘調査を実施した（第1・2次調査）。この調査によって縄文時代の遺構・遺物が数多く検出されたことで、当遺跡が重要な縄文時代の集落遺跡であることが知られることとなった。これらの調査の経緯と経過、および検出遺構の概要については既に報告がある（藤井ほか1970、菅原・奈良2011）。いっぽう、出土遺物については整理・報告が未了で、遺跡の全体像を把握・周知する上で課題となっている。これまで、有志により馬場川遺跡の未報告縄文時代資料の再整理と資料提示を進めてきたが（奈良ほか2014・2015、以下旧稿）、本章で報告するF地点の縄文土器・土製品もこの作業の延長として2016年度から2023年度まで断続的に再整理をおこなったものである。

なお、出土土器の報告にあたって、今回はF地点の全容を明らかにすることを主眼とし、検出遺構の時期についての再評価等はおこなわない。F地点では縄文時代晚期前半とされる堅穴建物等が確認されていることも重要な点であるが、再整理を進めるなかで、これらの遺構にも弥生時代以降の遺物が一定量含まれていることを確認した。そのため、遺構の時期比定には、細片も含めた遺構出土遺物の悉皆的な整理・検討とともに、調査日誌および調査図面等による調査過程との対照作業がさらに必要であると判断した。石器・石製品の再整理・報告とあわせ、今後の課題としたい。

#### 2) 土器

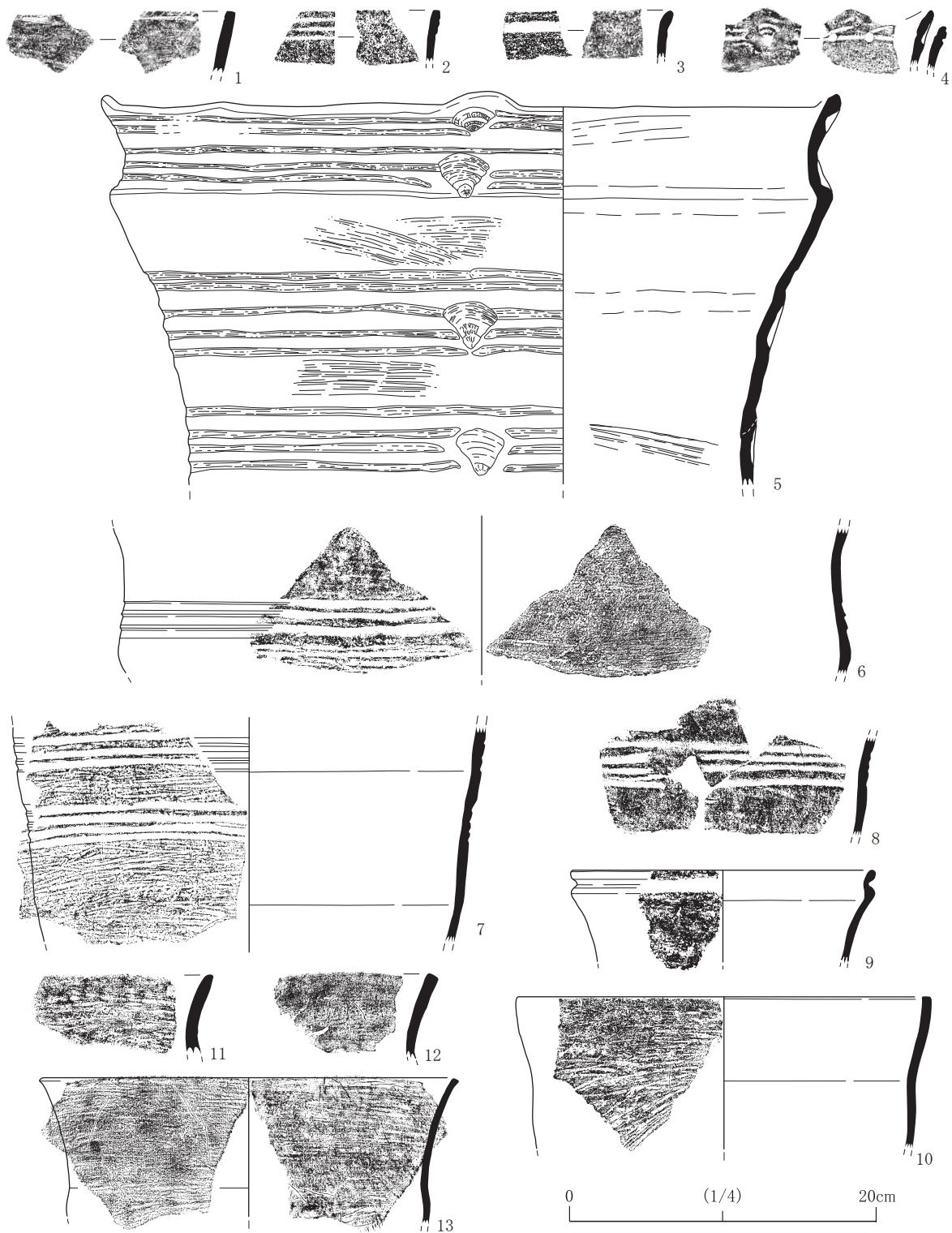
F地点出土土器は、後期中葉・元住吉山I式から晚期後葉・滋賀里IV式までに比定され、一部後期前葉に遡る可能性のある資料を含む。特に、晚期初頭・滋賀里II式から晚期中葉・篠原式までが中心をなす。旧稿で馬場川遺跡出土土器の分類を提示しており、F地点でもこの分類を概ね適用するが、一部について再編や補訂をしつつ記述を進めることとする。なお、型式比定にあたっては、既往の研究成果（泉1981・1989、家根1981・1994、岡田2000・2003・2011、玉田・岡田2010）を参照した。このうち滋賀里式の細別について、本文では家根祥多による「滋賀里I式・II式・IIIa式」（家根1981・1990）と、これを再編・細別した岡田憲一の「滋賀里式1a・b期、2a・b期、3a期」（岡田2003・2011）を併記したが、観察表では煩雑さを避けるため前者のみ示した。

##### 深鉢A類（1・2・10～13）

頸部界がくびれて、頸部がゆるく外反しながら立ち上がる。旧稿では内屈口縁のもののみ挙げていたが、広口口縁のものを含めた分類として再規定する。後期中葉～後葉に比定されるものである。口縁部が内屈または内湾するものをA1類、口頸部の区分がなく広口となるものをA2類とする。1・2は有文の深鉢A2類。1はキザミ施文で、元住吉山I式でも新相に比定される。皿形の浅鉢となる可能性もある。2は口縁部外面に3条のミガキ凹線をほどこす。元住吉山II式。10～13は無文土器。10は口縁部がゆるやかに内湾するA1類、11～13はA2類。

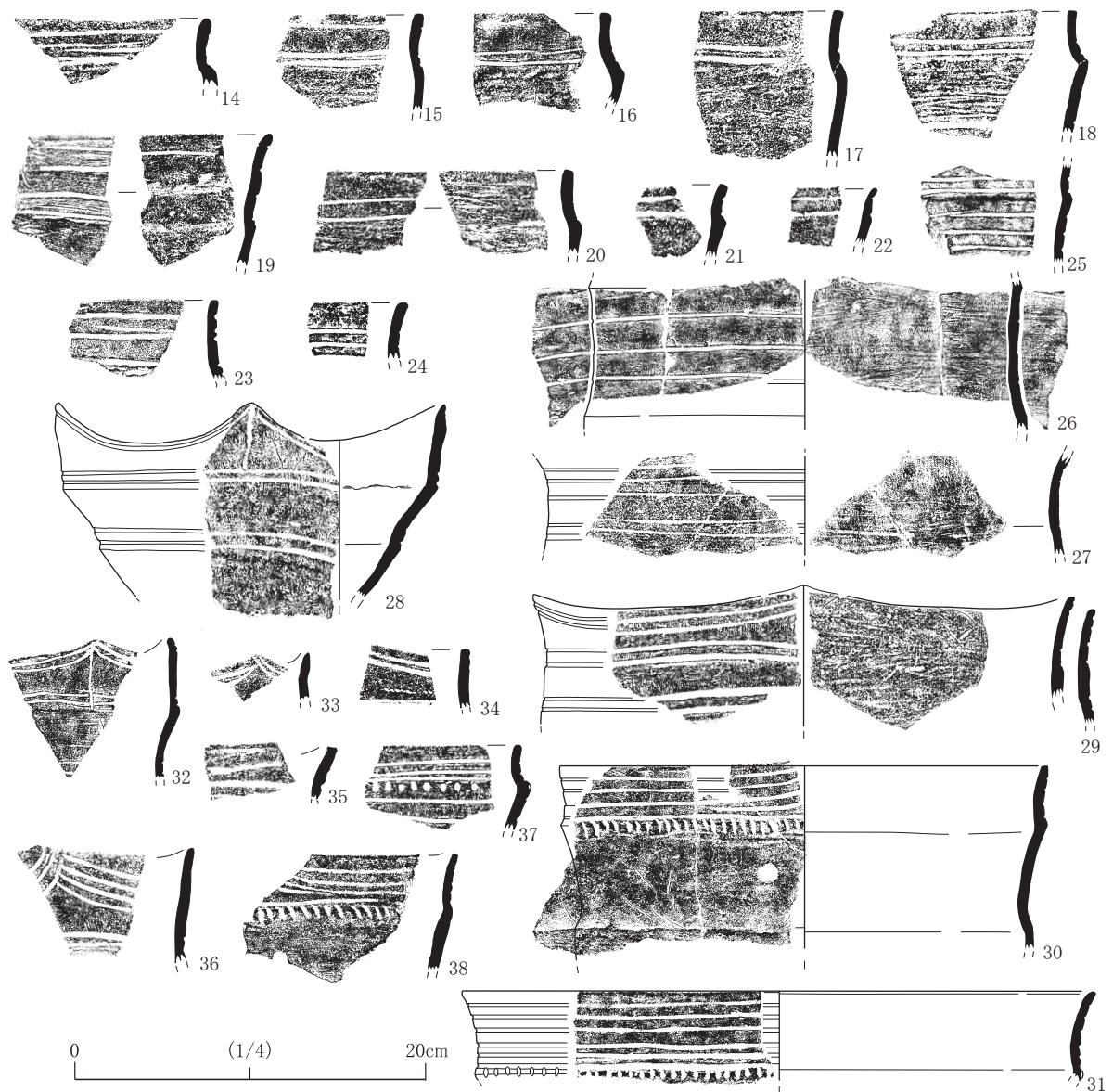
##### 深鉢B類（3～9）

口頸部界で内屈し、口縁部が外反しながら立ち上がるもので、凹線文をほどこすもの。平縁で、単位文部のみ小さく突出する。宮滝式に比定されるものである。3・4は口縁部破片。4は波頂部付近



第1図 F地点出土縄文土器（1）

で、単位文として粘土貼り付けを伴わない扇状圧痕文をほどこす。口縁部内面にも刺突文・沈線文をもつ。浅鉢となる可能性もある。5は大形の破片で、器形のわかる良好な個体である。口縁部突起文は4単位に復元され、粘土貼り付けを伴わない扇状圧痕文をほどこす。胴部には4～5条の凹線文帯を二段に配する。凹線は浅く、内部に条痕が残るいわゆるスジ凹線である。宮滝2式。6～8は胴部破片。7・8の凹線は断面レ字状を呈するいわゆるレ字凹線である。宮滝2式。9は小形の深鉢。口



第2図 F地点出土縄文土器（2）

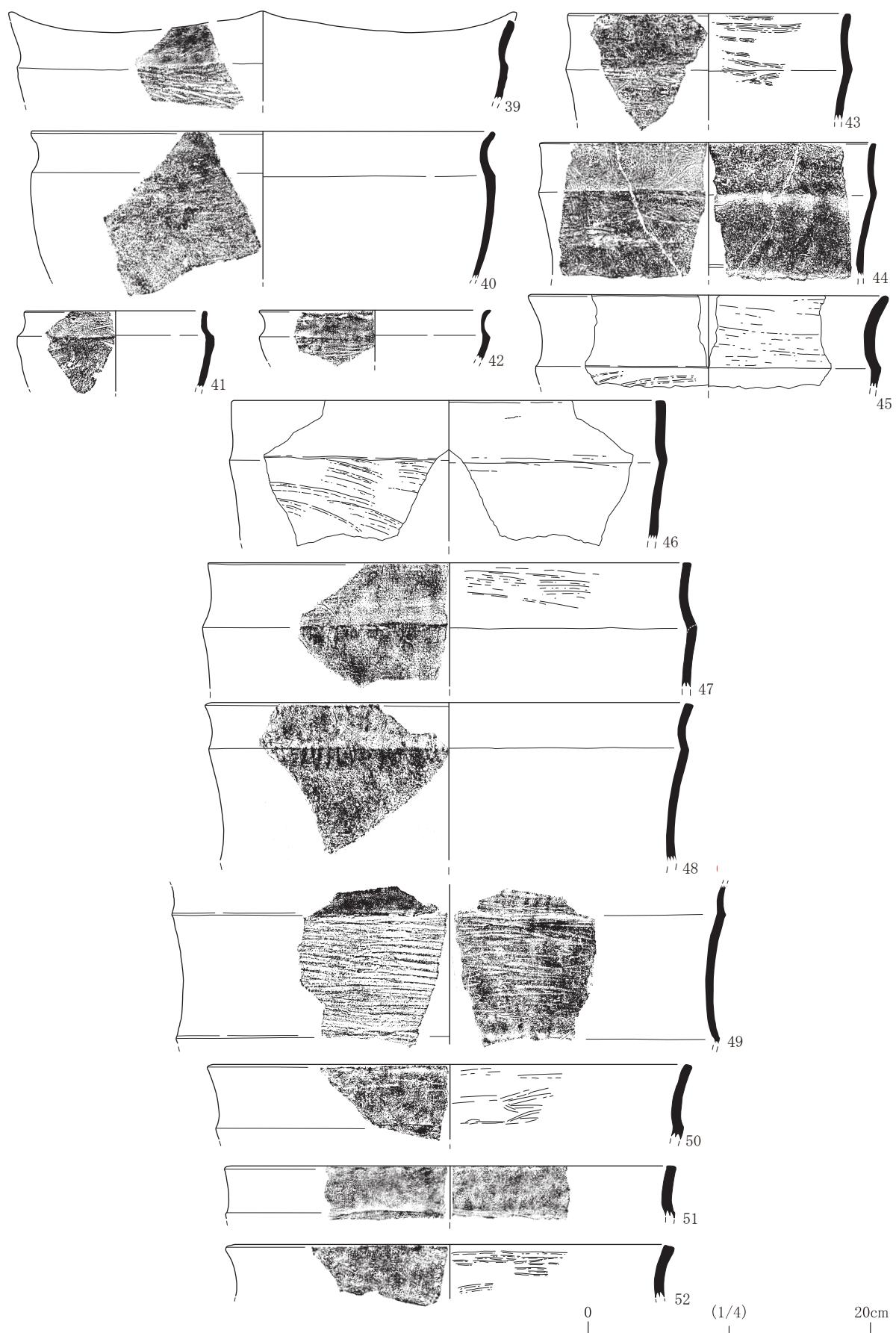
縁部外面は凹線ではなく、強い屈曲を作出する際のナデつけによるものである。器形の特徴から深鉢B類としたが、後述のC類とすべきかもしれない。口縁部内面の器壁から炭化種実が表出する。

#### 深鉢C・D・E類（14～83）

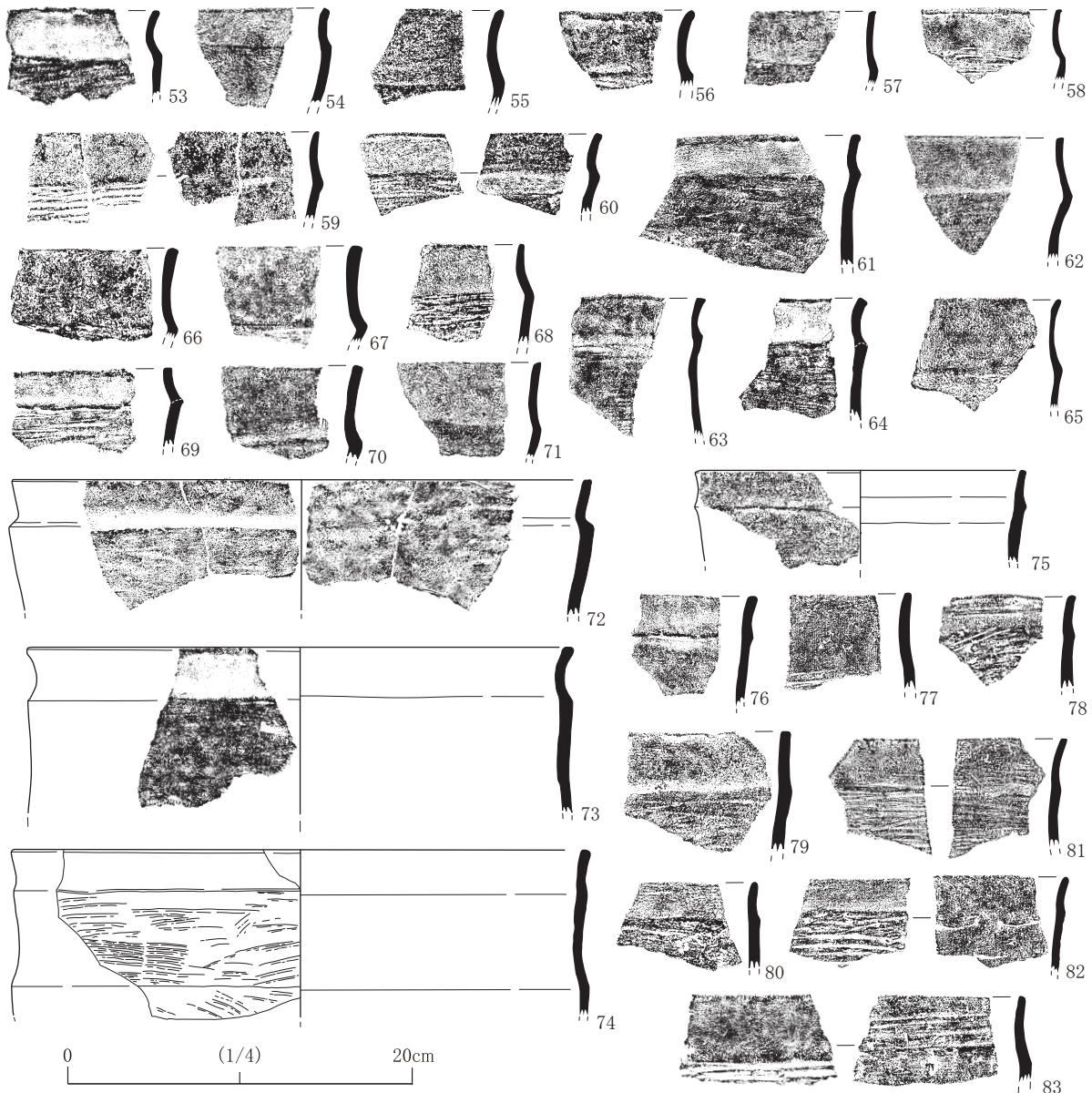
口頸部界で内屈し、口縁部が緩く外反しながら立ち上がる。深鉢B類と器形が共通するが、口頸部の屈曲がやや緩やかで、凹線文をもたない。滋賀里I式／滋賀里式1期から滋賀里II式／滋賀里式2期に比定されるもので、後期後葉から直接的に系譜する「宮滝系深鉢」（岡田2003）である。

深鉢C類（14～24・39～71）は、平縁で、ナデとユビオサエにより明瞭な屈曲を作出する。頸胴部界を作出せず胴部上半が内湾して口縁部に至るC1類と、胴部から陵をもって外反する頸部界を作出するC2類に細分する。それぞれ沈線文をもつものをa類、無文のものをb類とする。

14～17は深鉢C1a類。14は頸胴部界の張り出しが強く、口縁端部の面取りもみられない点で、深鉢B類に近い特徴をもつ。滋賀里I式でも古相、滋賀里式1a期に位置づけられる。18～22は深鉢C2a類。18は頸部にも沈線文をもつ。19は小形の深鉢あるいは浅鉢となるものか。外面はナデ調整だが、沈線間は横位の条痕をナデ消さず残している。21・22は短く外反する口縁部に、2条の



第3図 F地点出土縄文土器 (3)



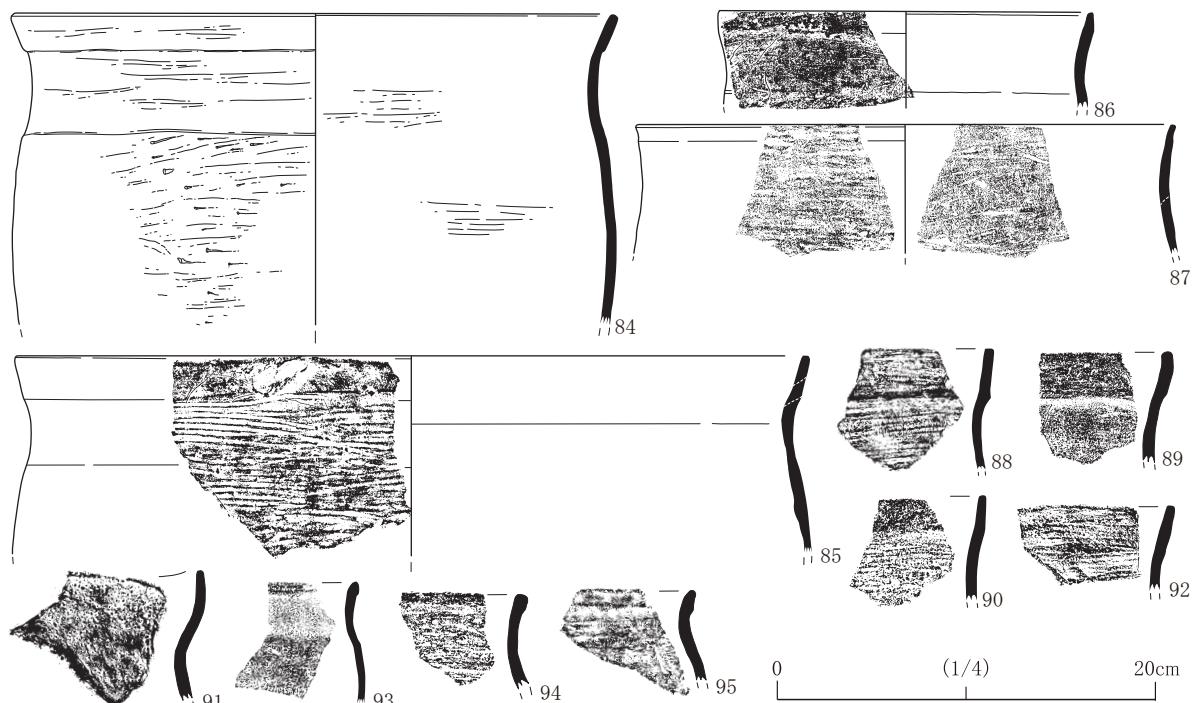
第4図 F地点出土縄文土器(4)

沈線がめぐる。瀬戸内地方・岩田第三類(潮見1960)に類するものか。23・24は深鉢C1・2a類の口縁部破片。深鉢C1a類・C2a類とも、器面調整はナデまたは巻貝条痕である。

39～42・53～58は深鉢C1b類。後述の深鉢J類との弁別が難しいものもあるが、口縁部内面にユビオサエが顕著に認められる点や、口縁端部の面取り、器面調整の特徴等から判断した。胴部調整は巻貝条痕が主体であるが、二枚貝条痕(39・56)やケズリ(53)もみられる。39は波状口縁となる可能性がある。深鉢D類が無文となったものとも捉えうるが、体部に屈曲をもたない点から本類に加えた。41・42は小形の器形で、旧稿で鉢A類としていたものに当たる。

43～49・59～71は深鉢C2b類。深鉢C1b類に比べて口縁部幅の長いものが主体的で、器面調整も二枚貝条痕の割合が多くなる。条痕調整のものでは、44・45・61～64のように頸部外面の調整後に弱いナデをほどこし、胴部調整と区別するものがみられる。69は口縁部のナデにより粘土が頸部の二枚貝条痕に被さり、稜を形成している。

深鉢D類(28～38)は、山形の波状口縁を呈するもの。口縁部は比較的長く、沈線文のほか刺突やキザミ等による施文を多用する。胴部から陵をもって外反する頸部を作出する点で、深鉢C2類と



第5図 F地点出土縄文土器（5）

同様の形態をとる。28は器高が低く、小形の器形となる。29は口頸部の屈曲が不明瞭で深鉢E類と同様の形態をとる。34は口縁部にLr無節縄文を水平に押圧した痕跡が認められる。当該期に縄文施文する器種は東日本系の異型式土器を除いて皆無であり、特異な事例といえる。

深鉢E類（72～83）は、平縁で、口縁部外面のナデ調整により口頸部界に稜を形成するが、内面の屈曲が不明瞭であるもの。深鉢C2類の口頸部の屈曲が退化したものと捉えられ、両者の差異は漸移的である。器面調整は巻貝条痕と二枚貝条痕のほか、ケズリも若干ある。

#### 深鉢F類（84～95）

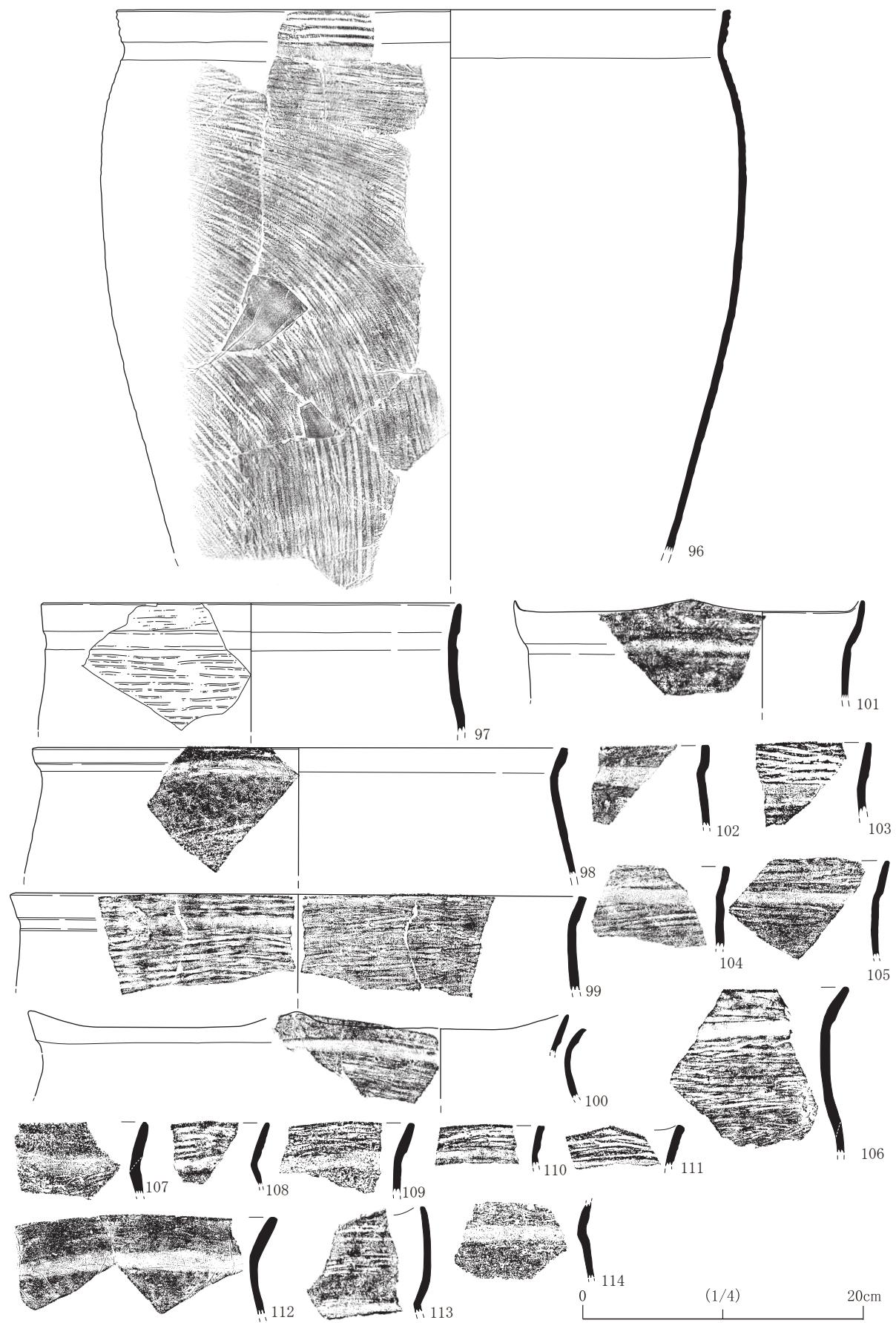
外反または立ち上がりぎみに内傾する頸部から、ナデにより段を形成して短く立ち上がる口縁部をもつもの。滋賀里II式／滋賀里式2期でも新相（2b期）に特徴的なものとされる（岡田2003）。「宮滝系深鉢」とは系譜の異なるもので、従前から指摘があるように、瀬戸内西部・岩田第四類（潮見1960）の影響によってあらたに組成に加わるものと考えられる。

84は口・頸部外面は条痕調整後にナデ、胴部はケズリ調整をほどこす。頸胴部界には弱い稜を形成する。85は頸胴部界の稜がみられず器形上の区分がないが、頸部は二枚貝条痕、胴部はナデとする。86・87は口頸部の段が弱く、口縁部幅も狭い。91は波状口縁となるものか。口頸部の段は不明瞭だが、頸部のナデにより口頸部を区分していることから深鉢F類に加えた。93～95は頸部ですばまり、壺に近い器形となる。口縁部幅が狭い点は86・87と共通するが、口頸部の段が明瞭である。

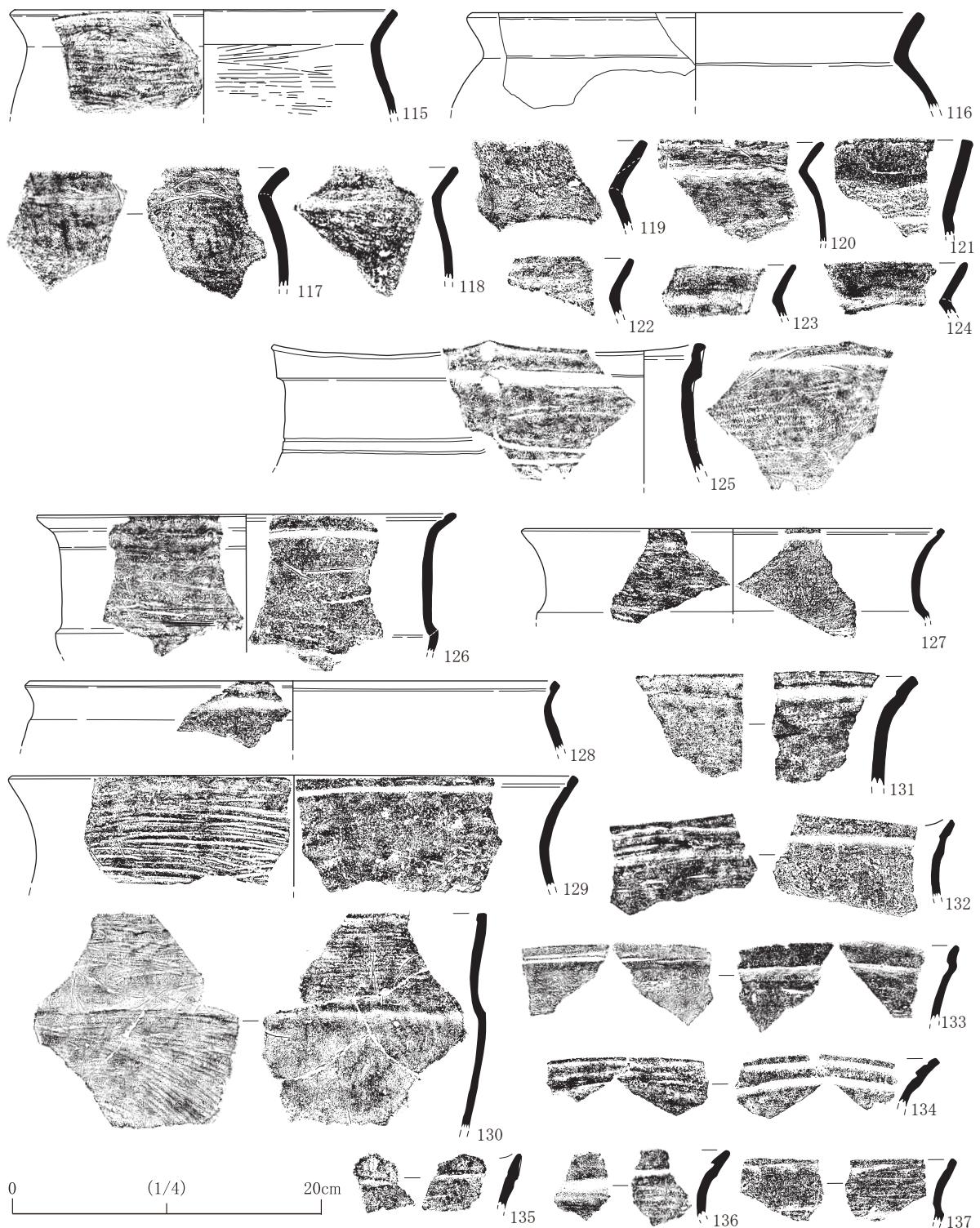
#### 深鉢G類（96～114）

強い一条のナデ調整により、短く外反する頸部を作出するもの。器面調整は二枚貝条痕が大半を占める。滋賀里IIIa式／滋賀里式3a期の指標的な深鉢である。口縁部の形態によって細分し、短く立ち上がる口縁部が頸部から直立するものをG1類、内湾あるいは直行する口縁部が頸部から外反し、その幅が3cm未満のものをG2類、3cm以上のものをG3類とする。

96・97・102～104は深鉢G1類。96は注記および概報の記載から、埋設土器と考えられるもの。胴部上半は横方向、胴部下半は下方から左上がりの二枚貝条痕調整がほどこされる。口縁部にも横位



第6図 F地点出土縄文土器 (6)



第7図 F地点出土縄文土器 (7)

の二枚貝条痕が明瞭に残る。103は96と同一個体か。98～100、105～111は深鉢G2類。100・111は波状口縁、その他は平縁である。98は胴部に巻貝条痕をほどこすが、頸部下3cm程度までナデにより調整痕を消している。99・104～106も頸部下の条痕調整後に弱いナデをほどこしており、98と同様になるものか。101・112・113は深鉢G3類。101・113は波状口縁、112は平縁である。

#### 深鉢H類 (115～124)

球形または倒卵形の胴部から、明瞭な稜をもって外屈し、短い口縁部が直線的に外反するもの。器

形上、頸部は作出しない。器面調整は巻貝条痕、二枚貝条痕、ケズリがみられる。深鉢F・G類と全体的なプロポーションが類似し、岩田第四類の影響により成立するものと考えられる。器形や器面調整から、滋賀里II～IIIa式／滋賀里式2～3a期に位置づけられよう。

115は外面に巻貝条痕をほどこすが、内面は巻貝と二枚貝を併用している。120は口縁部幅が他に比べてやや長いが、口縁部上半はナデ調整、下半はケズリ調整となっており、調整の境界と器形の境界が一致しない。

#### 深鉢I類 (125～137)

短く外反する口縁部の内面に段や抉りを有するもの。外反する頸部から、稜や段によって画された短い口縁部がとりつく。狭小な口縁部に比して、頸部が長く作出されるものが多い点に特徴がある。岩田第四類に類似するもので、岩田系深鉢（岡田2003）とも呼称され、近畿地方では滋賀里I～II式／1～2期に少量伴うあり方を示す。

125は波状口縁で、波頂部に指頭状圧痕による凹点を上下二段にほどこす。口縁部下は一条のナデにより明瞭な段を作出する。126は口縁部下に一条のナデをほどこすが、段はやや不明瞭。頸胴部界は張り出しが強く明瞭な稜をもつ。131も126に近しい口縁部形態をとる。134・136は口縁部幅がやや長く、外面に段、内面に抉りを有する。135は内外面の段が弱く沈線状を呈する。波頂部外面に縦位の押圧文をほどこす。127～129・130は口縁部外面の段がみられず、内面にのみ段を作出する。ただし、129は口縁部内面の段が沈線状を呈する。

#### 深鉢J類 (138～182)

胴部が上半で内湾してすぼまる倒卵形を呈し、くびれ部から外反する口頸部が立ち上がるもの。口縁部と頸部は器形上区分されない。篠原式の指標となる深鉢である。旧稿では口縁部形態により細分したが、本報告では細分を保留し、形態のバリエーションを個別に記述した。口頸部を横位のナデ、胴部をケズリ調整とするものが主体的である。

138～143・153・154・160～164は、球状の胴部から頸胴部界の内外面に明瞭な稜をもって屈曲し、直線的に外反する口頸部をもつ。154・164は頸胴部界に弱い一条のナデがみられ、深鉢G類に近しい特徴を有する。144・145・150～152・167～172は短い口頸部が強く外反し、やや内傾しつつ立ち上がるもの。口縁部がすぼまる形態をとり、壺形に近い器形となる。146～149・156～159・172～175は、頸胴部界の外面に明瞭な稜をもって屈曲し、強く湾曲してから長い口頸部が立ち上がるもの。155・176～179は頸胴部界の屈曲がゆるやかでS字状となるもの。179は口縁端部に小D字形の刻みをほどこす。181・182は口頸部の一部のみで全体形は不詳。いずれも二枚貝条痕が明瞭に残る。181の口縁端部には棒状工具の押圧によるO字形の刻みをほどこす。

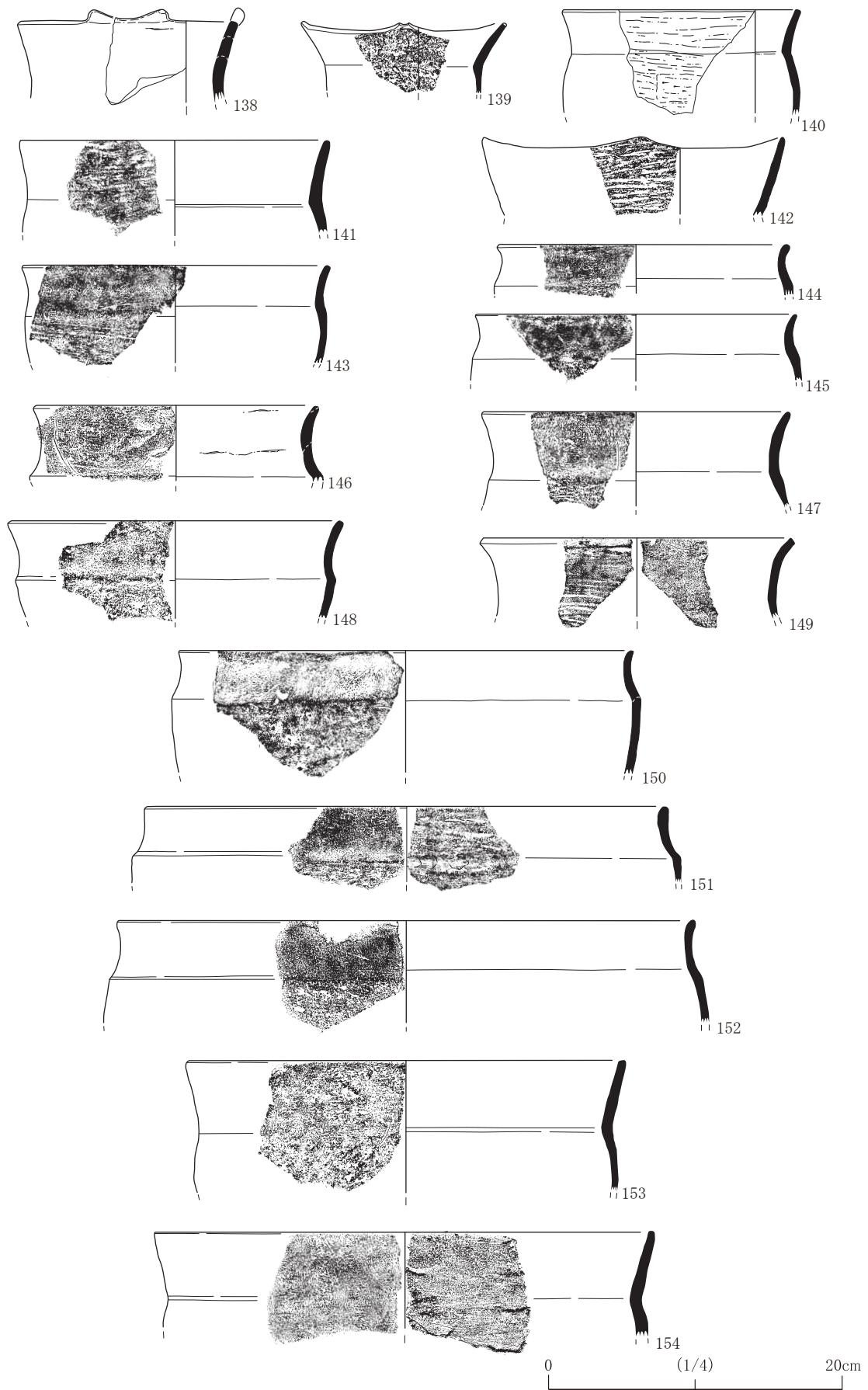
#### 深鉢K類 (183～189)

体部に屈曲をもたない砲弾形または広口のもの。外面をケズリ調整とするものを通有とする。旧稿では鉢B類としていたものの一部で、深鉢の一類型に再編した。晩期中葉・篠原式に比定される。

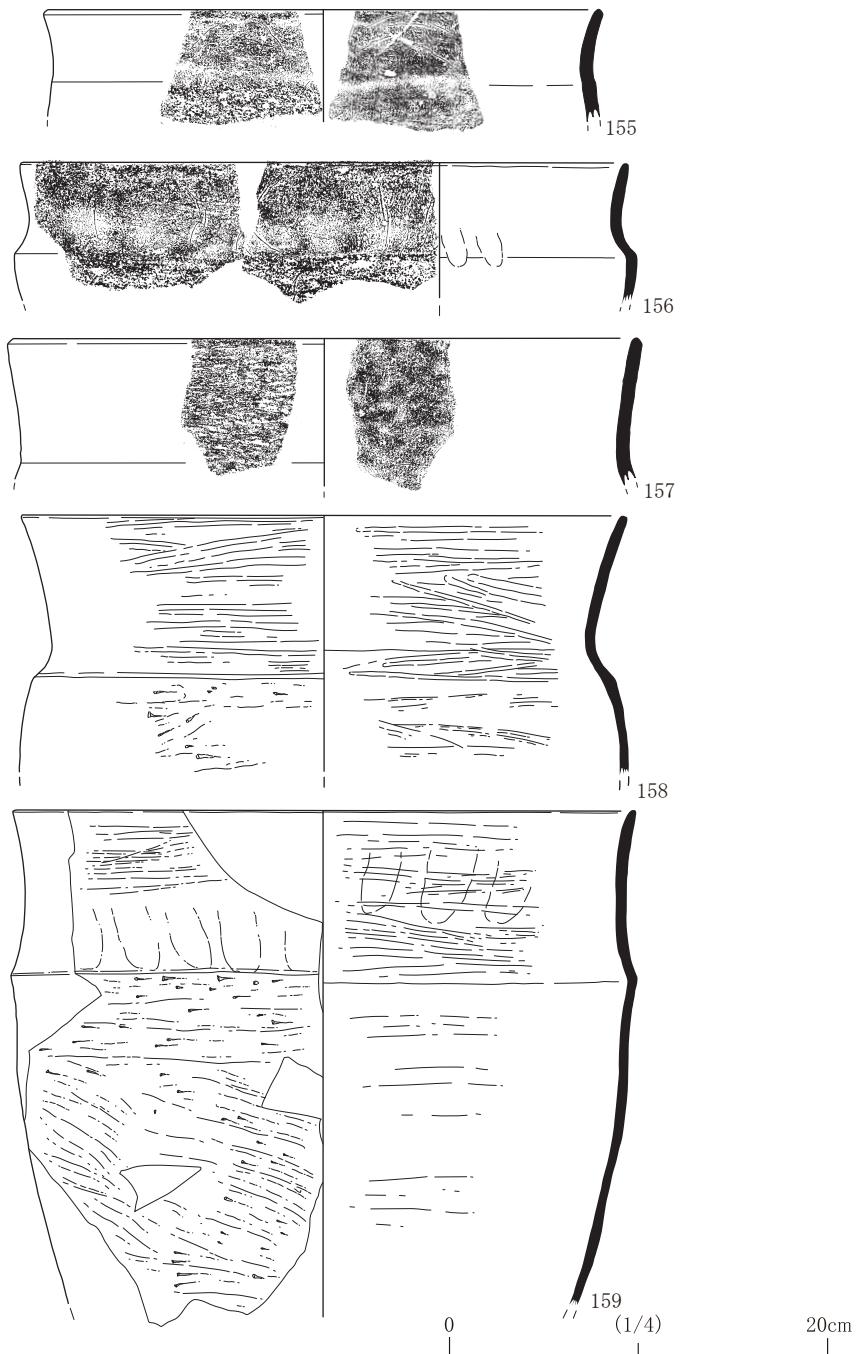
183・184・187～189は口縁部が直線的に開き、ラッパ状の形態となる。185・186は口縁部が内湾して砲弾形の形態となる。185は口縁部に突起文がとりつく。186は外面に粘土紐接合痕が顕著に残る。

#### 浅鉢A類 (190～205・217・218)

皿状の胴部に短く外反する頸部がとりつき、幅の広い口縁部が立ち上がるもの。口縁部を主たる文様帯とする。口縁部が直線的なものを浅鉢A1類、口縁部が内湾するものを浅鉢A2類とする。滋賀里II式／滋賀里式2期を中心に組成するもので、九州地方で成立・展開する黒色磨研浅鉢の影響が顕著である。口縁部の文様意匠は深鉢D類との類縁関係が強く見出される。



第8図 F地点出土縄文土器 (8)



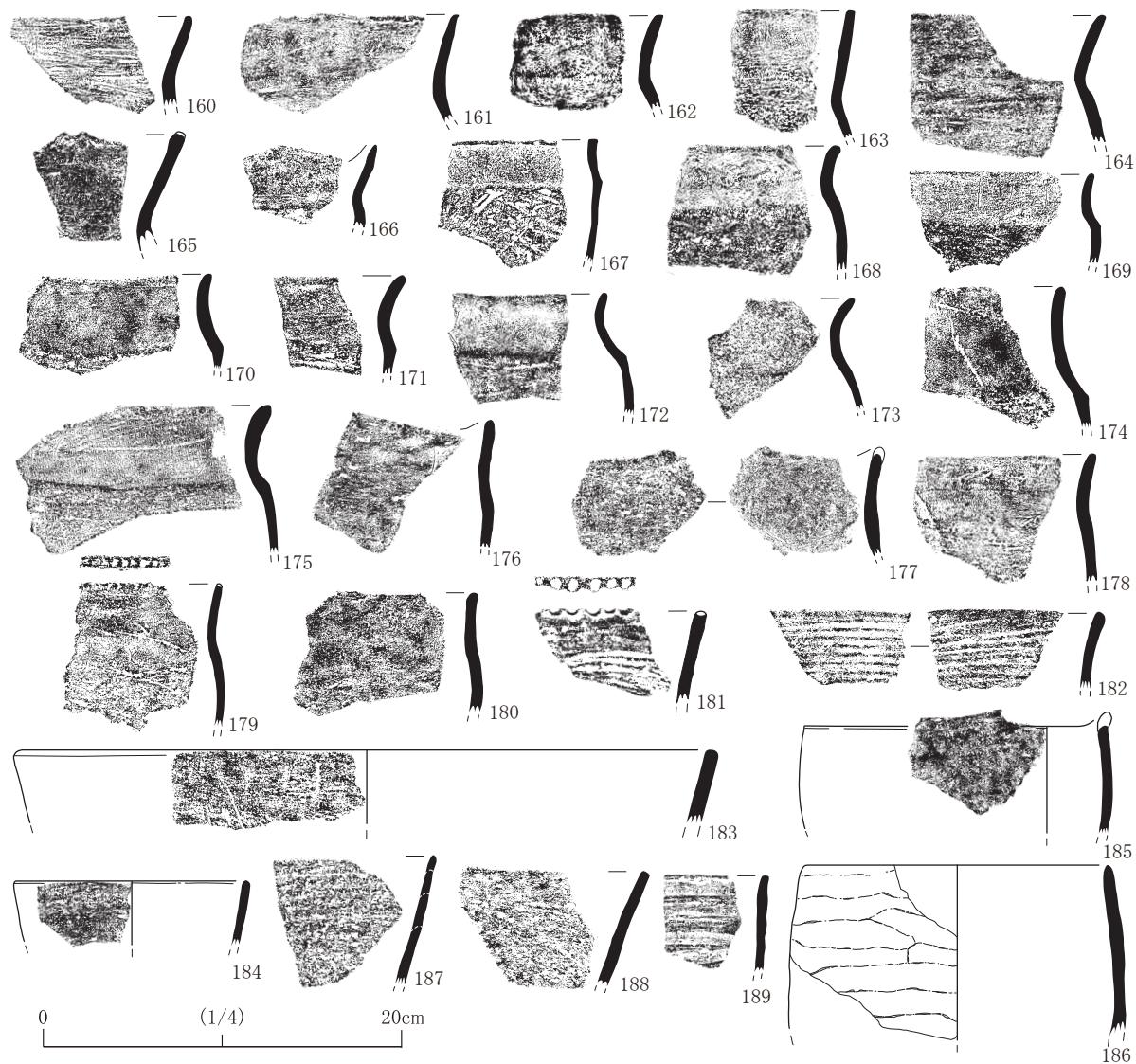
第9図 F地点出土縄文土器（9）

190・191・196は浅鉢A 1類。196は器面の摩滅が著しいが、半裁竹管により山形文をほどこすものか。192～195・197～205は浅鉢A 2類。192・193は口縁端部を丸くおさめるが、その他は口縁部内面に段または抉りをもち、深鉢I類と共通する特徴をもつ。195は胴部中半で屈曲をもって立ち上がり、そこに半裁竹管による山形文をめぐらせる。203は外面に赤色顔料が付着する。

#### 浅鉢B類（206～212）

皿状の胴部から口頸部が屈曲して短く外反し、直線的もしくは内湾気味に立ち上がるもの。黒色磨研浅鉢の一つで、滋賀里II式／滋賀里式2期を中心に組成する。

206は頸部から頸胴部界付近に浅い平行沈線がみられる。胴部の張り出しが強く、古相に位置づけられる。口縁部内面に段または抉り状の沈線をもつものが通有であるが、210は口縁端部を丸くおさ



第10図 F地点出土縄文土器 (10)

める。210は頸胴部界の屈曲も緩やかで、型式学的に後出する特徴を示す。

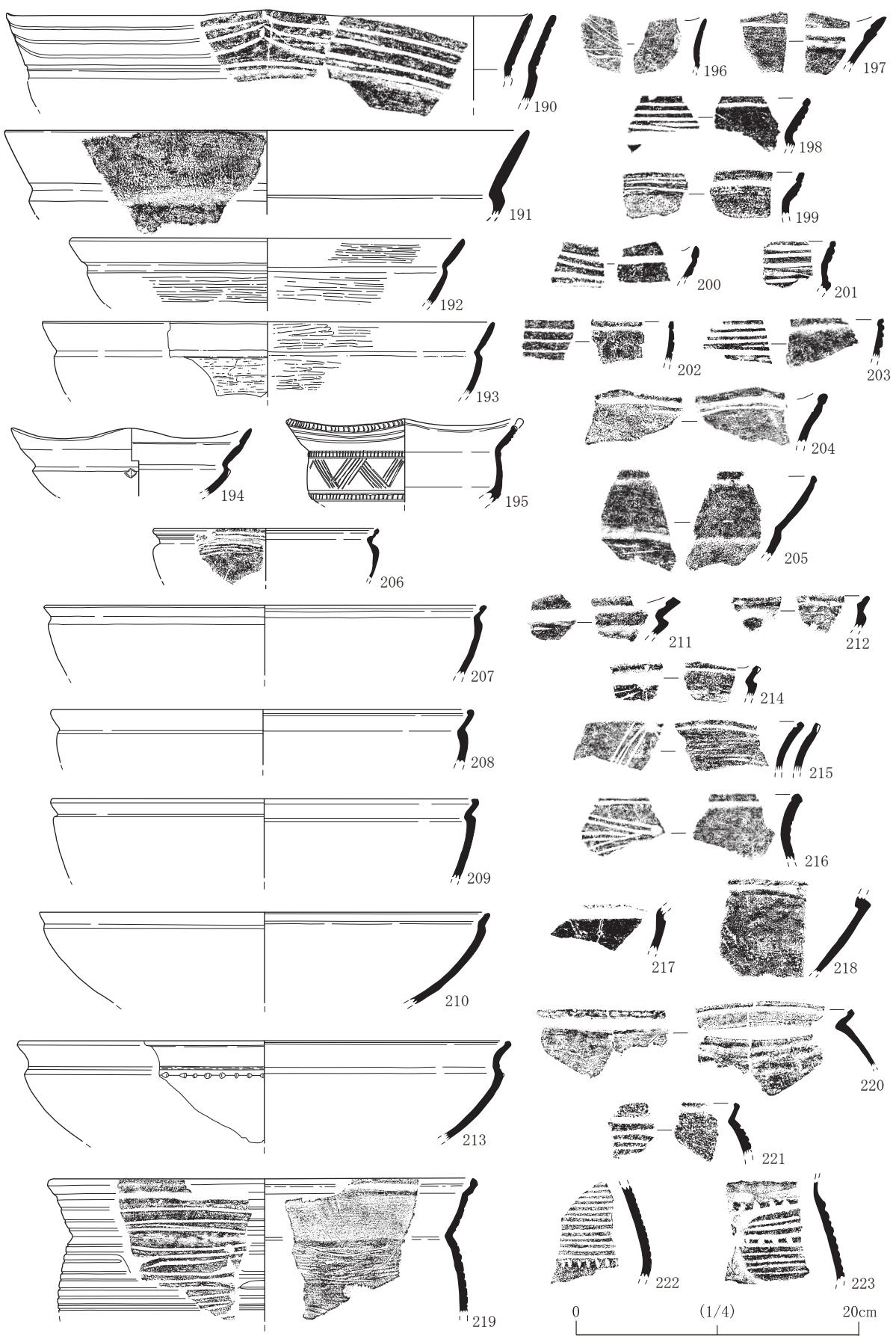
#### 浅鉢C類 (213～216)

皿状の胴部から内屈して長い頸部がとりつき、緩く外反して口縁部に至るもので、頸部を主たる文様帯とするもの。口縁部内面は抉りによる段または沈線をもつ。浅鉢A・B類とした黒色磨研浅鉢と同様の口縁部形態や器面調整をもつ。頸部の文様意匠は深鉢D類との共通性が高い。おおむね滋賀里Ⅱ～Ⅲa式／滋賀里式2～3a期に位置づけられよう。

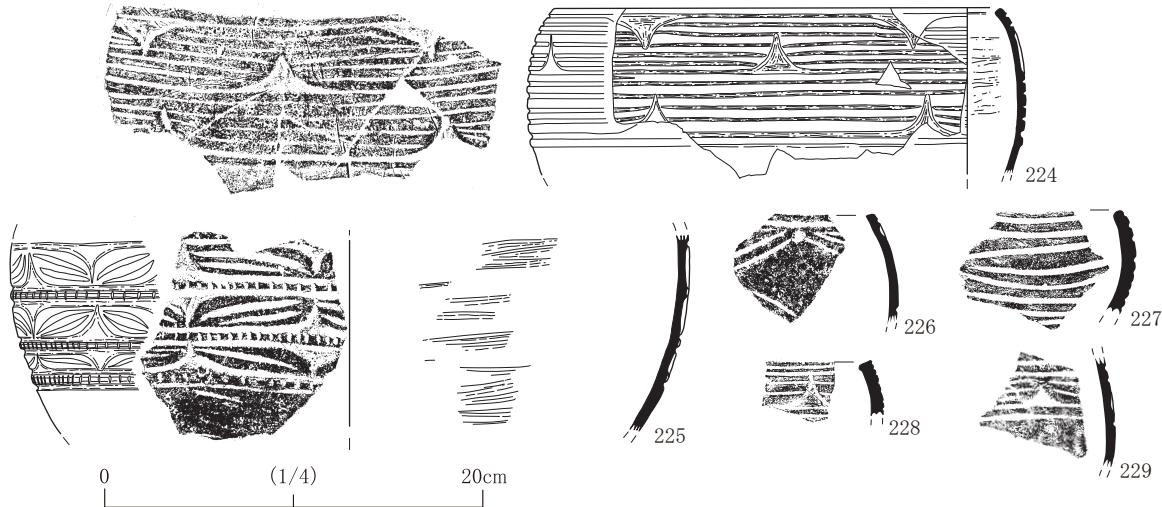
213・215・216は口頸部が器形上区分されない。213は頸部下端に1条の沈線をほどこし、頸胴部界にキザミをめぐらせる。頸部が短く、浅鉢B類に近い形態である。214は口縁部が「く」字状に屈曲したのち立ち上がる。低い波状口縁を呈し、波頂部の口縁部と頸部上端にキザミをほどこす。

#### 浅鉢D類 (219～223)

球状もしくは算盤玉形の胴部から、く字形に屈曲し口頸部が直線的もしくは内湾気味に立ち上がるもの。胴部上半を主たる文様帯とする。浅鉢C類と同様に黒色磨研浅鉢の特徴を有するが、器形は地域的な独自性を示すものと考えられる。壺に近い形態で、この種の器形には注口部が取り付く事例も散見されるが、F地点では確認されなかった。



第11図 F地点出土縄文土器 (11)



第12図 F地点出土縄文土器 (12)

219は内湾ぎみに立ち上がる長い頸部をもち、瓢形を呈する。頸部に平行沈線文、胴部上半にいわゆる檍原式文様を配する。220・221は口頸部が短く外反し、口縁部と頸部を形態上区分しない。

#### 浅鉢E類 (224～229)

平縁で口縁部が内湾し、ボウル状の器形となるもの。体部上半を主たる文様帶とする。浅鉢D類と同様に、黒色磨研浅鉢の特徴を有しつつも、近畿地方周辺を中心に成立・展開した器種と考えられる。

224・225・228・229は三角形剖析文をもつといわゆる檍原式文様をもつ。226は半裁竹管による2条単位の沈線で描出した山形文を二段に配する。頂点には押捺による珠文が配される。227は多重沈線による対向弧線文となるものか。

#### 浅鉢K類 (230～279)

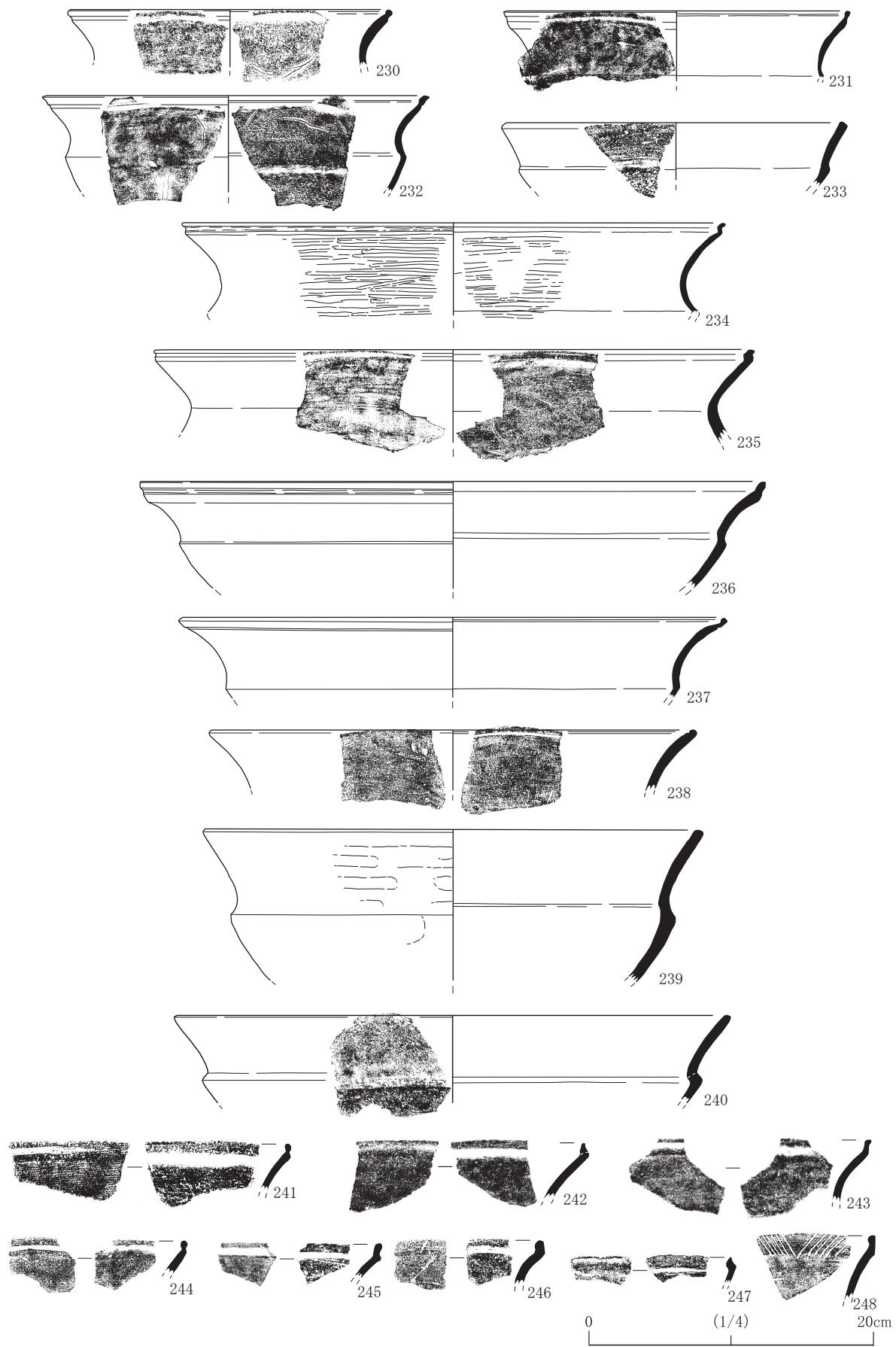
皿状の胴部から内屈して長い頸部がとりつき、外反して口縁部に至るもので、主として口縁部を文様帶とするもの。いわゆる黒色磨研浅鉢の一つで、九州地方で成立・展開するものである。近畿地方では滋賀里Ⅱ式／滋賀里式2期から組成が明確化し、晚期後葉に至るまで連続的な展開を追うことができる。口縁部の形態と文様、頸部の外反度によって細別するが、旧稿の細分に加えて晚期中葉から後葉に比定されるK7類からK10類を再編・追加した。

K1類は、頸部が強く屈曲して外反し、頸部または胴部に沈線をほどこすもの。F地点では該当するものは見られなかった。

K2類は、頸部が強く屈曲して外反し、口縁部が明瞭な屈曲をもって立ち上がるもの。滋賀里Ⅱ～Ⅲa式／滋賀里式2～3a期に位置づけられる。口縁部外面に1条の沈線をほどこすものをK2a類、無文のものをK2b類とする。234～236・241～245は浅鉢K2a類。246・247は浅鉢K2b類。248は口縁部幅がやや広く、半裁竹管による鋸歯状をほどこす。

K3類 (230・237・249～251) は、頸部が強く屈曲して外反し、口縁端部の立ち上がりが弱いもの。K4類 (231・232・252～257) は、頸部から緩やかに外反し、口縁端部の立ち上がりが弱いもの。これらは主として滋賀里Ⅲa式／滋賀里式3a期に比定される。

K5類 (238・258～260) は、緩やかに外反する頸部から、屈曲せず口縁部へと至るもの。口縁部内面に沈線をもつ。258は内面に赤色顔料が付着する。K6類 (239・240・261・262) は、K5類と類似するが、口縁部内面に沈線をもたず無文とするもの。239の外面にみられるミガキ調整は、他のものに比べて調整単位が幅広い。262は頸部に補修孔がみられる。これらは主として篠原式古～中段



第13図 F地点出土縄文土器 (13)



第14図 F地点出土縄文土器 (14)

階に位置づけられよう。

K 7類 (263～268) は、緩やかに外反する長い頸部から、そのまま口縁部へと至り、口縁内面が玉縁状に肥厚するもの。篠原式新段階に位置づけられる。263・264は器形・調整等が共通し、同一個体の可能性がある。265は口頸部界に接合痕が顕著に認められる。

K 8類 (269～271) は、緩やかに外反する長い頸部から、口縁部が「く」字形に短く屈曲して肥厚し、いわゆる鍵形を呈するもの。K 9類 (272～274) は、緩やかに外反する長い頸部から、そのまま口縁部へと至り、口縁部内外面に無刻凸帯をめぐらせるもの。これらは凸帯文土器成立段階の特徴を示すもので、鬼塚遺跡第8次調査 (H地点下層) や第28次調査でまとまった出土がある。

K 10類 (275～279) は、緩やかに外反する長い頸部から、そのまま口縁部へと至り、口縁部外面に無刻凸帯をめぐらせるもの。滋賀里IV式に比定される。275～277は口縁部内面に1条の沈線をめ

ぐらせる。275・276は同一個体の可能性がある。278・279は口縁部内面の沈線をもたず、無刻凸帶のみである。

#### 浅鉢G類 (280～283)

皿状の胴部から内屈して長い口頸部がとりつき、緩く外反して口縁部に至るもので、無文のもの。頸胴部界の屈曲が緩やかで、器高に比して口径が小さい。主として巻貝条痕をほどこす点や、胴部屈曲の形態から、後期後葉から末葉に位置づけられよう。281は口縁部外面にわずかにススが付着する。

#### 浅鉢J類 (284・285)

球状の胴部からく字形に強く外屈し、短い口縁部を形成するもの。調整単位が残らないミガキ調整をもつ点で、後述の浅鉢L類との共通性が認められることから、晩期中葉に位置づけられるものと考えられる。284・285はともに口縁部内面に2条の浅い凹線がめぐる。

#### 浅鉢L類 (286～293)

胴上部が強く張り出してからすぼまり、く字形に外屈して立ち上がる口縁部をもつもの。九州地方の晩期中葉・黒川式を構成する黒色磨研浅鉢の一つで、近畿地方では篠原式の組成をなす。286・291は胴部が稜をもって内屈する算盤玉形を呈し、口縁部は直線的に立ち上がる。290は口径がやや小さく、壺に近い形態をとる。287～289・292・293は口縁部が短く立ち上がる。口縁端部の形態には、丸く收めるもの(288・289)と、玉縁状に肥厚するもの(287・292・293)の二者が認められる。

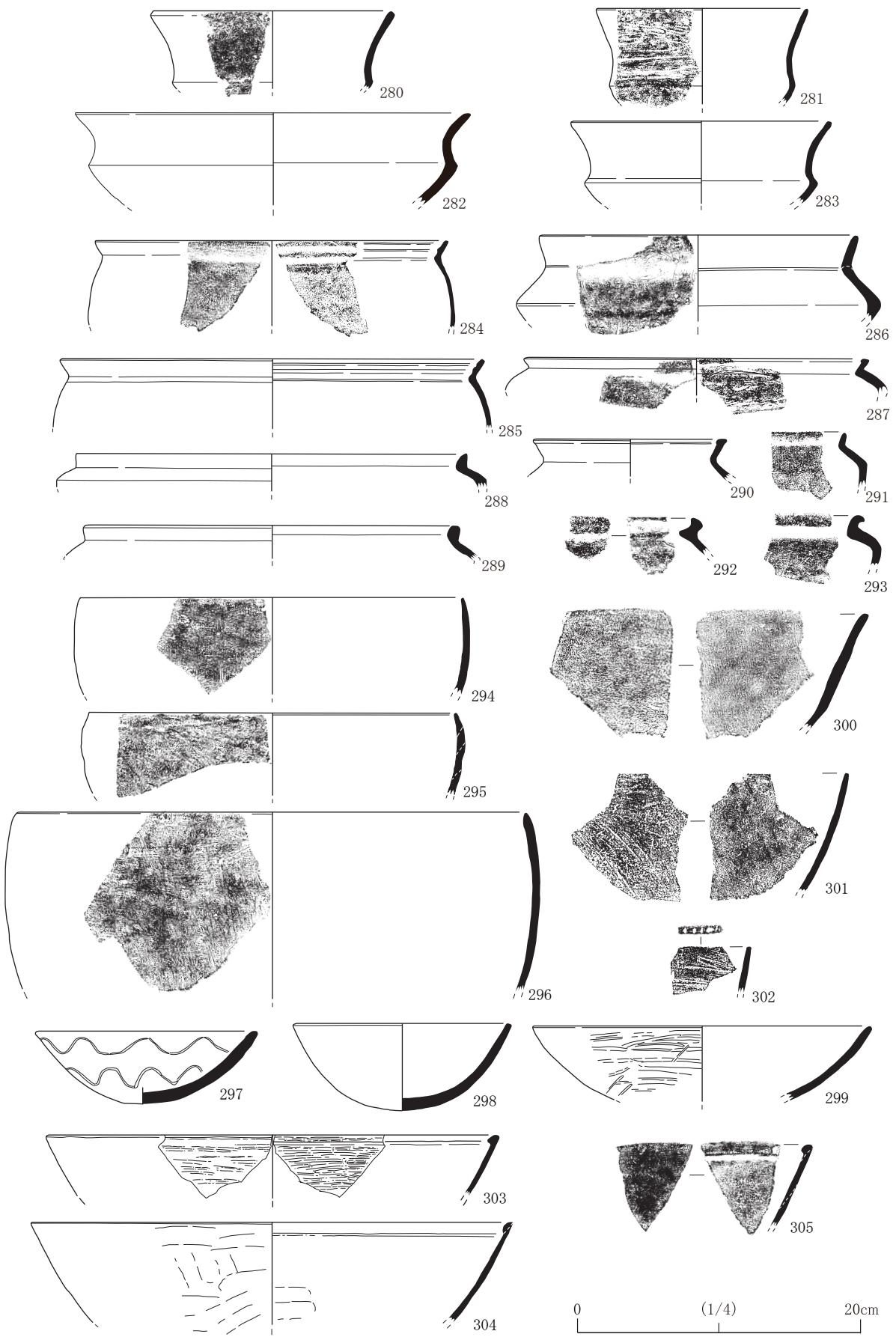
#### 浅鉢N類 (294～305)

体部に屈曲がなく、椀状を呈する器形となるもの。旧分類で鉢B類としていたものにほぼ相当するが、浅鉢の一類型として新たに再編した。器形および口縁端部の形態により細分する。口縁部が内湾してすぼまるボウル状のものをN1類、口縁部が開き気味で皿状となるものをN2類とし、器形はN2類と同様で口縁内面が玉縁状に肥厚するものをN3類とする。N1・2類は後期後葉から晩期前半に、N3類は口縁端部形態やミガキ調整が顕著である点から篠原式に、それぞれ位置づけられる。

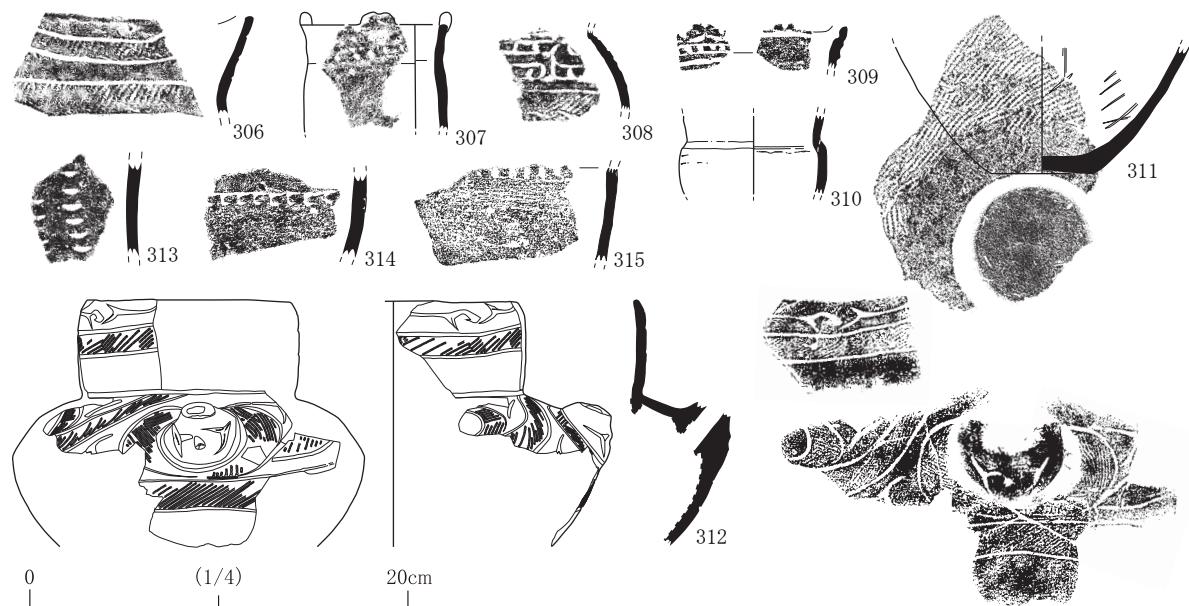
294～296は浅鉢N1類。294は内面に赤色顔料が付着する。296は外面を浅いケズリによって調整したのち、縦位のミガキを疎らにほどこす。297～302は浅鉢N2類。297は体部に2条の波状沈線文をめぐらせる。302は口縁端部にV字状の刺突をほどこす。303～305は浅鉢N3類。いずれも内外面にミガキ調整をほどこす。

#### 東日本系土器 (306～312)

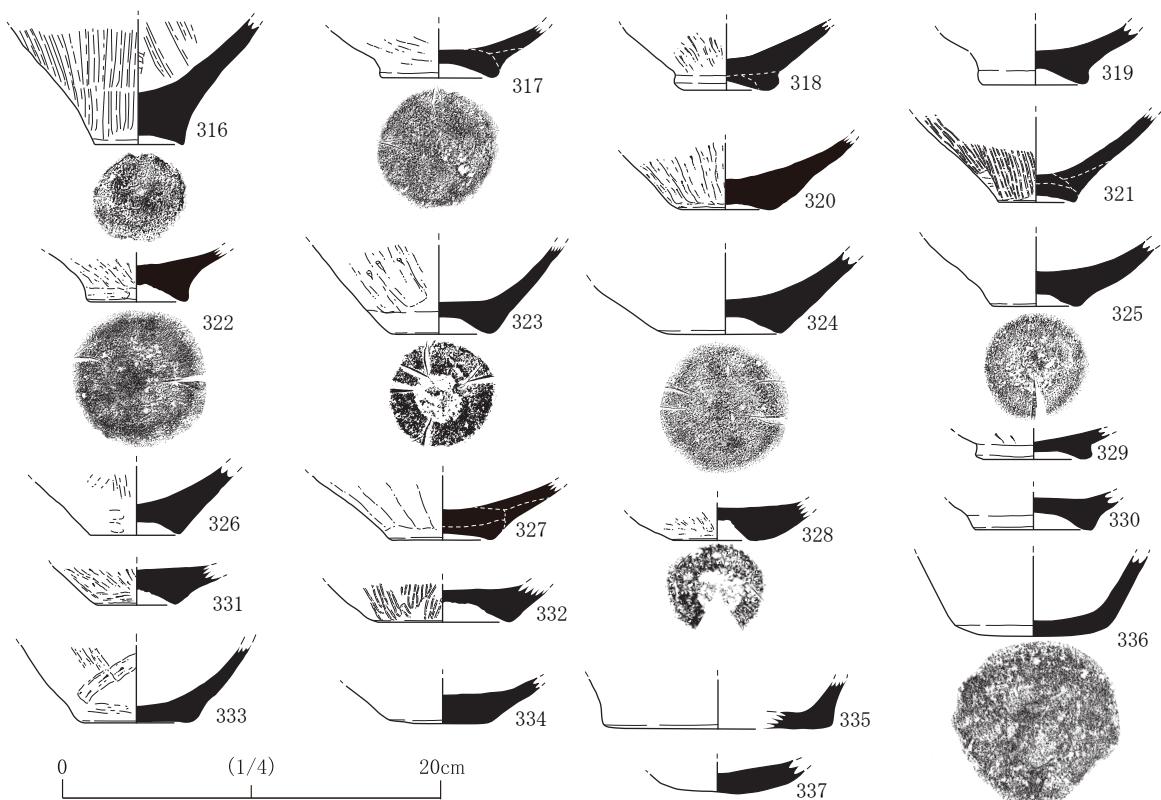
306～312は器形や文様から東日本系と判断したもの。306は頸胴部界がく字形に屈曲し、直線的に口縁部に至る。口頸部は器形上区分されず、ここに磨消縄文帯による文様をほどこす。文様は二帶の縄文帯によって描出され、上段は弧状であるのに対し、下段は平行で、下端は頸胴部界の屈曲直下にくるようである。器形や磨消縄文帯による文様意匠を持つ点から、後期末葉から晩期前半の東日本の土器型式との関係性を想定したが、相当する型式は不詳である。なお、胎土はいわゆる生駒西麓産の特徴を有する点を付記しておく。307は小形の深鉢で、器面の摩滅が著しい。口縁部のB突起と羊歯状文から大洞BC式に比定できるが、摩滅により器面調整や文様構成などは不明瞭である。308も羊歯状文をもつ球形の胴部破片で、壺または小形の深鉢とみられる。大洞BC式に比定できる。破片の下端付近に縄文の結節部がみられる。309は小形の深鉢または鉢の口縁部破片。口縁部にB突起と列点文が配され、大洞C1式に位置づけられよう。310は無文の小形深鉢の胴部破片である。文様意匠や縄文施文を持たないため、東日本系とする積極的根拠に乏しいものの、頸胴部界が内面側に張り出しをもつ接合によって作出されている点を重視した。311は小形深鉢の底部。小径の平底で、胴下部に面的に縄文を施文する。312は注口土器。注口部は付け根部分以外は欠損するが、口縁部から胴



第15図 F地点出土縄文土器 (15)



第16図 F地点出土縄文土器 (16)



第17図 F地点出土縄文土器 (17)

部下半まで遺存する。算盤玉形の胴部にゆるやかに内湾する口頸部がとりつき、瓢形を呈する。口頸部は上段に入組三叉文、下段に磨消縄文帯を配する。胴部は曲線的な磨消縄文帯と割込三叉文を配する。関東・安行3a式にみられる大洞系大型注口土器と対比すべきものか。

#### 西日本系土器 (313～315)

313～315は深鉢J類と同様の形態で、縦位または横位に刺突列をもつ。瀬戸内中部・谷尻式に比定される。刺突にはD字形のもの (313・315) と、逆コ字形のもの (314) の二者が認められる。なお、この種のものは近畿地方でも篠原式新段階に一定量伴うことが通有である。

## 底部 (316 ~ 337)

底部破片を一括して記述する。底部の形態は、凹底 (316 ~ 332)、平底 (333 ~ 335)、丸平底 (336)、丸底 (337) が認められる。凹底には、底面全体が弧状に凹みナデ調整をほどこすもの (316 ~ 320)、底面の中央部がさらに凹む形態で、外周部をナデ調整し、中央部は砂粒の剥落が顕著に認められるもの (322 ~ 332) の二者が認められる。平底の 335 は、底部径が広く胴部が直線的に立ち上がる形態をとることから、後期前半のものである可能性がある。

## 3) 土製品

338 ~ 349 は土偶。338 は土偶頭部である。円板状を呈する上面には、眼・鼻・口が表現されイレズミと考えられる線刻が施される。額付近には平行する線刻が施され、鼻を中心として放射状の線刻が認められる。両側面には耳と考えられる圧痕が認められる。両目・鼻は刺突による窪みで表現され、口は貫通し咽部分まで刺突痕が残る。339 は土偶右上半身である。奴形土偶で橢円を呈する乳房をもつ。背面の頸部がやや反っていることから頭部は斜め上を向いていたと考えられる。340 は右上半身である。腕部の一部が欠損しているが奴形土偶である。乳房は欠損しており痕跡を残すのみである。341 は土偶の腕部であろうか。両側面とも扁平に仕上げており、正面と背面を区別する差は認められない。胴部との接合面も明瞭な剥離痕はなくどのように胴部と接合していたのか判断できない。勾玉の可能性もある。342 は奴形土偶の腕部である。やや丸みがある面を背部と考え左腕と考える。343 は土偶腕部である。断面にやや丸みを呈する側を背部とみれば左腕となる。344 は土偶腕部であろうか。円柱状の粘土塊を僅かに屈曲させ、端部を尖らせている。端部に僅かな平坦面をナデにより形成しており、掌を表現したものと考えれば右腕となる。345 は、左上半身である。乳房は垂れ下がっており、縦長の方形を呈する。太くてがっしりした腕を想定できるが欠損する。胴部の中心には穿孔によって消化管が表現されている。大型の土偶が想定される。346 は土偶左下半身である。脚は短く腰はわずかにくびれる。股の部分には何度もユビオサエによって窪みを作り出している。臀部はわずかに窪む。胴部の中心には消化管が貫通している。345 と胎土や色調が同じことから、接合はしないが同一個体であった可能性がある。347 は土偶臀部である。下膨れとなる窪みによって臀部を表現している。股の付け根部分が僅かに残存している。腹部は剥離しており断面形状は不明である。348 は土偶の脚部である。くびれを持つ円柱状の粘土塊に湾曲させた端面を持つ。表面に粘土が隆起する部分が認められることから、この部分を臀部とすれば左脚となる。349 は土偶脚部である。短く円錐状を呈する。臀部と考えられる膨らみを持つ面と比較的平坦な面があることから左脚と考える。

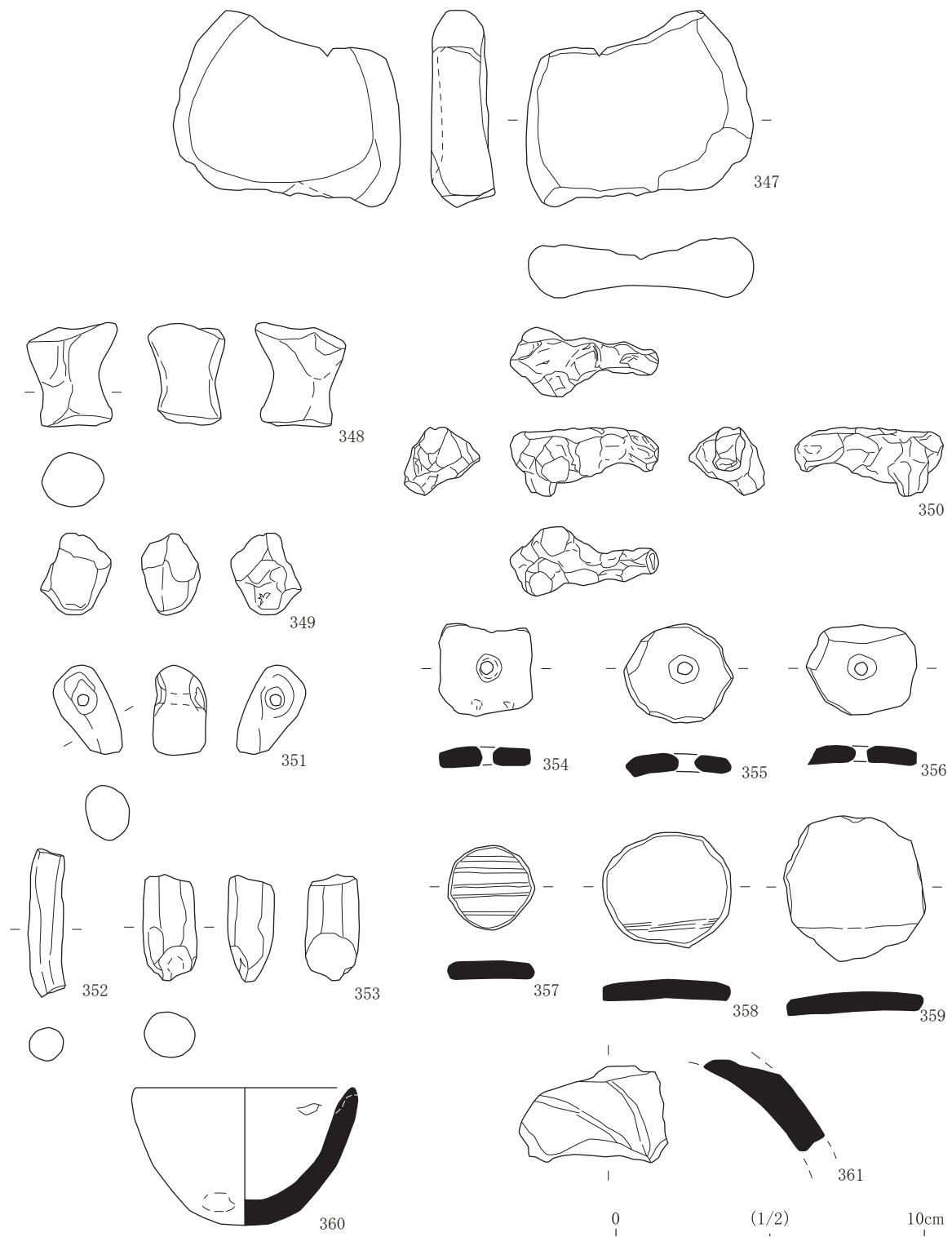
350 ~ 361 はその他の土製品。350 は動物形土製品である。細長く整形した粘土に、脚と考えられる粘土塊を接合している。頭部は方形を呈しており、左右をユビオサエにより平坦面を作り出している。眼を表現していると考えられる。頭部正面はユビオサエによって横長に窪みを作り出し、口を表現している。後脚は太くハの字に広がる。臀部は粘土塊からつまみ出すように成形しており、尾を表現しているのであろう。背中は平坦に仕上げている。前脚と考えられる部分に欠損があるよう見えれるが、剥離痕は明瞭ではなく判然としない。藤城泰らは動物形 (イヌか) として報告している (藤城・三輪・若松 1999)。

351 は土製勾玉である。僅かに湾曲する粘土紐の一部に穿孔がなされている。両側から穿孔した上で、両側とも外側に向かってラッパ状に広がる。

352・353 は棒状土製品である。352 は、端部は欠損しているが形としては湾曲する。把手の可能性もある。353 は、円柱状で端部は両面を指で押さえることにより端部を尖らせている。



第18図 F地点出土土製品(1)



第19図 F地点出土土製品（2）

354～359は円板状土製品である。354～356は中央部に穿孔がある。354は外面にケズリが認められる。晩期の深鉢の破片であろう。355は二枚貝条痕が認められる。晩期前葉の体部片である。356は外面にナデが認められる。晩期の土器であろう。357～359は穿孔をもたない。357は外面に沈線による文様が残る。橿原式文様と考えられ滋賀里II式の浅鉢の破片である。358は外面に巻貝状圧痕が残る。後期末の土器であろう。359は外面に丁寧なナデとわずかな稜線が認められる。口縁部と体部の境の破片であり篠原式の深鉢と考えられる。

360 はミニチュア土製品である。鉢を模したものである。

361 は半球状土製品である。外面に円弧状の沈線が二重に廻る。

#### 4) まとめ

本章では、馬場川遺跡第1次調査F地点出土の縄文時代資料のうち、土器および土製品について報告した。冒頭に触れたように、石器・石製品や、遺構出土遺物については課題として残るものF地点の内容の一端を明示したるものと考える。

整理の結果、F地点出土土器は後期後葉・宮滝2式から晩期中葉・篠原式までに主体があることが明らかとなった。中でも、晩期初頭・滋賀里II式/滋賀里式2期と、晩期中葉・篠原式が量的に豊富であり、ここに盛期を見いだすことができる。いっぽう、後期末葉・滋賀里I式/滋賀里式1期と晩期前葉・滋賀里IIIa式/滋賀里式3a期は、これに比してやや少くなるようである。こうした出土土器全体の様相と、各遺構の時期および変遷を比較・検討することによって、馬場川遺跡における集落の形成過程とその展開を明らかにしてゆく必要があろう。

なお、F地点出土土器について留意すべき点として、晩期中葉から後葉にかけて浅鉢のあり方が挙げられる。既述のように浅鉢K類は晩期初頭以降、晩期後葉・滋賀里IV式に比定される無刻凸帯文浅鉢（浅鉢K 10類）の成立に至るまで、連続的な型式変化を追うことができる。しかしながら、深鉢に目を転じると、篠原式に比定される深鉢J類には、新段階の特徴である口縁端部の刻みを付すものは僅少で、また凸帯文を付す深鉢も認められない。こうした深鉢と浅鉢の年代的位置づけの齟齬は、馬場川遺跡C・D・E地点の報告においても触れたところである（奈良ほか 2015）。

また、出土土器のなかには、東西の地域に系譜を有する土器も見受けられた。岩田第四類に対比される深鉢I類（岩田系深鉢）は一定量の出土があり、かつ形態や文様のありかたからすれば、瀬戸内西部地域において指摘されているような複数段階の型式変化（小南 2000・幸泉 2023）と同調的な変遷過程を見いだすこともできる。さらに、東日本に系譜を有する土器のなかには、晩期初頭に比定される大形注口土器の良好な事例が含まれる点は特筆されよう。これらの資料は馬場川遺跡における東西地域との交流のありかたを具体的に示す事例であり、さらに縄文時代晩期における日本列島東西の地域間関係をうかがうための基礎資料となるものである。

土製品については、土偶が量的に主体をなす。いずれも小片であり、全体形をうかがうことのできる資料は含まれないが、馬場川遺跡で多出する奴形土偶が大半を占める点は、本遺跡の特徴を示しているものと考えられる。いっぽう、顔面表現をもつ頭部片が含まれている点は特筆され、複数の系譜・年代に属する土偶型式が含まれることを明示するものと言えよう。

馬場川遺跡は、縄文時代晩期の集落遺跡として著名でありながら、遺跡の具体的な内容はなお不明な点も多くある。既往調査の成果について整理・検討を進めてゆくことは、遺跡の実態解明に不可欠なものである。加えて、1967（昭和42）年の遺跡発見以降、24次にわたる調査がおこなわれているものの、本遺跡には発掘調査の及んでいない地点も多く存在している。今後、周辺での発掘調査が蓄積されることによって、遺跡全体の様相がより詳細に明らかになることが期待される。

#### 【参考文献】

泉 拓良 1981 「近畿・中国・四国地方」『縄文土器大成3 後期』講談社

泉 拓良 1989 「西日本磨研土器様式」『縄文土器大観4 後期 晩期 縱縄文』小学館

泉 拓良 1990 「西日本凸帯文土器の編年」『文化財学報』第8集 奈良大学文学部文化財学科

- 泉 拓良・山崎純男 1989 「凸帯文系土器様式」『縄文土器大観 4 後期 晩期 縄文』小学館
- 大塚達朗 1995 「橿原式紋様論」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第 13 号 東京大学文学部考古学研究室
- 岡田憲一 2000 「西日本縄文後期後葉土器編年序論」『向出遺跡』大阪府文化財調査研究センター
- 岡田憲一 2003 「滋賀里式再考－西日本縄文晚期土器様式の構造転換－」『立命館大学考古学論集 III－1』立命館大学考古学論集刊行会
- 岡田憲一 2011 「近畿地方縄文晚期土器編年と奈良県下基準資料」『重要文化財 橿原遺跡出土品の研究』奈良県立橿原考古学研究所
- 北野 重・花田勝広・桑野一幸 1984 『大県・大県南遺跡』柏原市文化財概報 1983- III 柏原市教育委員会
- 幸泉満夫 2023 「岩田系土器群の研究」『古文化談叢』88 九州古文化研究会
- 小林圭一 2010 『亀ヶ岡式土器成立期の研究－東北地方における縄文時代晚期前葉の土器型式－』早稲田大学総合研究機構先史考古学研究所
- 小南裕一 2000 「岩田第 4 類土器小考」『山口考古』20 山口考古学会
- 小南裕一 2007 「西部瀬戸内の縄文晚期土器」『第 18 回中四国縄文研究会 縄文後晚期の西部瀬戸内地方』中四国縄文研究会
- 菅原章太・奈良拓弥 2011 「第 2 章 馬場川遺跡第 20 次発掘調査（遺物・総括編）」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成 21 年度－』東大阪市教育委員会
- 潮見 浩 1960 「山口県岩田遺跡出土縄文時代遺物の研究」『広島大学文学部紀要』第 18 号 広島大学文学部
- 滋賀里資料研究会（編）2023 『滋賀里遺跡資料図譜』真陽社
- 田辺昭三・加藤 修（編）1973 『湖西線関係遺跡調査報告書』滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
- 玉田芳英・岡田憲一 2010 「5. 近畿」『西日本の縄文土器 後期』真陽社
- 坪井清足 1951 「滋賀県大津市滋賀里遺跡」『日本考古学年報 1（昭和 23 年度）』日本考古学協会
- 坪井清足 1962 「縄文文化論」『岩波講座日本の歴史 1 原始および古代』岩波書店
- 奈良拓弥・上峯篤史・妹尾裕介・木村啓章・小泉翔太・河本純一 2014 「馬場川遺跡 B 地点の縄文時代資料」『大阪文化財研究』第 44 号 大阪府文化財センター
- 奈良拓弥・妹尾裕介・木村啓章・小泉翔太・旭大輝・河本純一 2015 「馬場川遺跡 C・D・E 地点の縄文時代資料」『大阪文化財研究』第 46 号 大阪府文化財センター
- 藤井直正ほか 1970 『馬場川遺跡 I』東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報 4 東大阪市教育委員会
- 藤城 泰・三輪若葉・若松博恵 1999 「東大阪市の土偶土製品」『光陰矢如』「光陰矢如」刊行会
- 宮地聰一郎 2022 「西日本縄文時代晚期の土器型式圏と遺跡群」雄山閣
- 家根祥多 1981 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究 4 縄文土器 II』雄山閣
- 家根祥多 1994 「篠原式の提唱－神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討－」『縄文晚期前葉－中葉の広域編年』平成 4 年度科学研究費補助（総合 A）研究成果報告書

第1表 F地点出土縄文土器観察表

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
1	T 9 / 4層 /-	後期中葉	元住吉山 I 式	深鉢 A 2類	口縁部	-/-	巻貝条痕のちナデ	ミガキ	浅鉢の可能性あり
2	T 3 ~ 4 / 4層 /-	後期後葉	元住吉山 II 式	深鉢 A 2類	口縁部～ 頸部	-/-	ナデ	ナデ	
3	T 9 / 4層 /-	後期後葉	宮滝式	深鉢 B 類	口縁部	-/-	ナデ	ナデ	
4	T / 5層 /-	後期後葉	宮滝 2式	深鉢 B 類	口縁部	-/-	ミガキ	ナデ	小型のもの または浅鉢 か
5	東側南北断面トレン チ / 青白色粘土上面・ 青白色砂層	後期後葉	宮滝 2式	深鉢 B 類	口縁部～ 胴部	(40.2) /-	巻貝条痕のちナデ	巻貝条痕のちナデ	
6	- / 5層 /-	後期後葉	宮滝 2式	深鉢 B 類	胴部	-/-	巻貝条痕・ナデ	巻貝条痕のちナデ	
7	東側南北トレンチ / 青白色粘土上面 /-	後期後葉	宮滝 2式	深鉢 B 類	胴部	-/-	巻貝条痕	ナデ	
8	東側南北トレンチ / 青白色粘土上面 /-	後期後葉	宮滝 2式	深鉢 B 類	胴部	-/-	巻貝条痕	巻貝条痕	
9	- / 4層 /-	後期後葉か	-	深鉢 B 類か	口縁部～ 頸部	(19.8) /-	ナデ	ナデ	端部に種子 圧痕
10	T 5 ~ 8 / 不明 /-	後期中葉～ 後葉	-	深鉢 A 1類	口縁部～ 胴部	(27.9) /-	巻貝条痕	巻貝条痕のちナデ	
11	T 5 ~ 8 / 5層 / 住 3	後期中葉～ 後葉	-	深鉢 A 2類	口縁部～ 胴部	-/-	二枚貝条痕	ヨコミガキ	
12	T 10 / 4層 /-	後期中葉～ 後葉	-	深鉢 A 2類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちナデ	ナデ	
13	T 9 / 5層 /-	後期中葉～ 後葉	-	深鉢 A 2類	口縁部～ 胴部	(27.3) /-	巻貝条痕	巻貝条痕	
14	T 4 / 4層 /-	後期末葉	滋賀里 I 式	深鉢 C 1 a 類	口縁部	-/-	ナデ	ナデ	
15	T 3 ~ 4 / 4層 /-	後期末葉	滋賀里 I 式	深鉢 C 1 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕	
16	T 3 / 5層 /-	後期末葉	滋賀里 I 式	深鉢 C 1 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕のちナデ	
17	T 3 / 4層 /-	後期末葉	滋賀里 I 式	深鉢 C 1 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちナデ	口：巻貝条痕 胴：ナデ	
18	T 3 / 4層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 2 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	口：巻貝条痕のち ナデ 胴：巻貝条痕	ナデ	
19	T 12 / 4層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 2 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	小型のもの または浅鉢 か
20	T 5 ~ 8 / 3層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 2 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕	
21	T 3 ~ 4 / 4層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 2 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	岩田第三類 か
22	T 5 ~ 8 / 3層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 2 a 類	口縁部～ 胴部	-/-	不明 (摩滅)	不明 (摩滅)	岩田第三類 か
23	T 4 / 5層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 1 · 2 a 類	口縁部	-/-	ナデ	ナデ	
24	T 5 ~ 8 / 不明 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C 1 · 2 a 類	口縁部	-/-	ナデ	ナデ	
25	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C · D 類	胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕	
26	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C · D 類	胴部	-/-	ナデ・巻貝条痕	巻貝条痕	
27	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I ~ II 式	深鉢 C · D 類	胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕	
28	- / 5層 /-	晚期初頭	滋賀里 II 式	深鉢 D 類	口縁部～ 胴部	(22.1) /-	ナデ	ナデ	小型の深鉢
29	T 3 / 5層 /-	晚期初頭	滋賀里 II 式	深鉢 D 類	口縁部～ 胴部	(30.1) /-	ナデ	巻貝条痕	
30	T 5 /- 住 5	晚期初頭	滋賀里 II 式	深鉢 D 類	口縁部～ 胴部	(27.8) /-	ナデ	ナデ	胴部に補修 孔

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
31	T 3 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部	(36.2) /-	ナデ	巻貝条痕のちミガキ	
32	BBF-11/ 不明 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕のちナデ	
33	BBF-11/-/-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部	-/-	ナデ	ナデか (摩滅)	
34	T 3 / 4層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部	-/-	ナデ	巻貝条痕	外面に繩の 押圧痕
35	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部	-/-	ナデ	ナデ	浅鉢A 1類 の可能性あり
36	T 3 / 4層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部	-/-	口：ミガキ 胴：条痕か	ナデ・ミガキ	
37	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕のちナデ	
38	T 5～8 / - / 住 3	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
39	T 5～8 / 5層 / 住 3	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	(36.0) /-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	波状口縁か
40	T 5～8 / 5層 / 住 2	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	(32.6) /-	口：ナデ 胴：巻貝条痕か	ナデ	
41	表面採集 /-/-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	(13.0) /-	ナデ	ナデ	小型の深鉢
42	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	(16.4) /-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	ナデ	小型の深鉢
43	T 5～8 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(20.0) /-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕	
44	T 3 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(23.8) /-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	ナデ	
45	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(25.5) /-	口：ナデ 胴：条痕のちナデ	ミガキ	
46	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(30.6) /-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕のちナデ	外面わずか にスス付着
47	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(34.2) /-	ナデ	巻貝条痕のちナデ	
48	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	(34.6) /-	口：ナデ 胴：巻貝条痕か (摩 滅)	巻貝条痕のちナデ	
49	T 5 / 5層 / 住 2	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	二枚貝条痕のちナ デ	
50	T 5～8 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1・2 b類	口縁部～ 胴部	(34.3) /-	口：ナデ 胴：ナデ	巻貝条痕のちナデ	
51	T 5～8 / 5層 / 住 3	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1・2 b類	口縁部	(32.0) /-	ナデ	ナデか (摩滅)	
52	T 3 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1・2 b類	口縁部	(31.7) /-	ナデ	巻貝条痕のちナデ	
53	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
54	T 3～4 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデか (摩滅)	二枚貝条痕	
55	T 9 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
56	T 9 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕か	条痕か (摩滅)	
57	-/ 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	二枚貝条痕	
58	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 1 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	ナデ	
59	T 9 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	
60	T 5～8 / 5層 / 住 2	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕のちナデ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
61	T 10/ 5層 / 溝	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	ナデ	
62	T 5～8/ 5層 / 住3	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	ナデ	
63	T 5～8/ 5層 / 住3	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	二枚貝条痕か	
64	T 5～8/ 5層 / 住3	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	ナデ	
65	T 5～8/ 5層 / 住2	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
66	T 3 / 4層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕か(摩滅)	
67	-/ 5層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕か	巻貝条痕のちナデ	
68	T 9 / 5層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	59と同一個 体か
69	T 5～8/ 5層 / 住3	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	ナデか (摩滅)	内面の接合 痕顯著
70	T 10/ 5層 / 溝	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
71	T 3 / 5層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式	深鉢C 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	二枚貝条痕のちナ デ	
72	T 10/ 5層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	(33. 6) / -	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	ナデ	
73	T 5～8/ 5層 / 住3	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	(31. 6) / -	ナデ	ナデか (摩滅)	
74	T 9 / 5層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	(33. 6) / -	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕のちナデ	外面わずか に煤付着
75	T 5～8/ 5層 / 住3	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	(19. 2) / -	ナデ	ナデか (摩滅)	
76	T 10/ 5層 / 溝	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	ナデ	
77	T 5～8/ 5層 / 住3	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリか	ナデ	
78	T 7 / 5層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 頸部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
79	T 12/ 4層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	巻貝条痕のちナデ	
80	T 3～4/ 4層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 頸部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕のち ナデ	巻貝条痕のちナデ	
81	T 5～8/ 4層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：巻貝条痕	巻貝条痕のちナデ	
82	T 10/ 5層 / 溝	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	内面の接合 痕顯著
83	T 9 / 4層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：二枚貝条痕	二枚貝条痕のちナ デ	
84	BBF2/ 5層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	(32. 1) / -	口・頸：条痕のち ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
85	T 3 / 5層 / -	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	(42. 0) / -	口：ナデ 頸・胴：二枚貝条 痕	ナデ	
86	T 10/ 5層 / 溝	晚期初頭	滋賀里 II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	(28. 5) / -	口：ナデ 頸・胴：巻貝条痕	巻貝条痕	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
87	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	(19.8) /-	口・頸：ナデ 胴：ケズリか	ナデ	
88	T 10 / 5層 / 溝	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 頸部	-/-	卷貝条痕	卷貝条痕	
89	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 頸部	-/-	口縁部条痕のちナ デ 頸部ナデ	二枚貝条痕	
90	T 9 / 4層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 頸部	-/-	口：ナデ 頸：卷貝条痕	卷貝条痕	
91	T 3 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 頸部	-/-	ナデか (摩滅)	ナデ	
92	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 頸部	-/-	卷貝条痕のちナデ	ナデ	
93	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	卷貝条痕	
94	T 10 / 5層 / 溝内	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ケズリのちナ デ 頸・胴部：ケズリ	ナデ	
95	T 3 / 4層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	深鉢F類	口縁部～ 胴部	-/-	条痕のちナデ	ナデ	
96	T 10 / 5層 / 溝内	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 1類	口縁部～ 胴部	(43.6) /-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	埋設土器か
97	東側南北断面トレンド チ / -/-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 1類	口縁部～ 胴部	(29.8) /-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	
98	T 3 / 4層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	(38.0) /-	口：卷貝条痕のち ナデ 頸：ナデ 胴：上部ナデ、下 部卷貝条痕のちナ デ	ナデ	
99	- / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	(41.0) /-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	二枚貝条痕・卷貝 条痕か	
100	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	(38.4) /-	ナデ	ナデ	
101	T 5 / 5層 / 住 3	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 3類	口縁部～ 胴部	(25.0) /-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：ナデ	ナデ	波頂部に指 頭状圧痕
102	T 10 / 5層 / 溝	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 1類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
103	2 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 1類	口縁部～ 胴部	-/-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	ナデ	96 と同一個 体か
104	東側南北断面トレンド チ / 赤褐色土層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 1類	口縁部～ 胴部	-/-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	ナデ	97 と同一個 体か
105	東側南北断面トレンド チ / 赤褐色土 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	-/-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	ナデ	
106	- / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	-/-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：二枚貝条痕の ちナデ	ナデ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
107	T 4 / 3層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
108	- / 3層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 頸部	-/-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ	ナデ	
109	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 胴部	-/-	口：二枚貝条痕の ちナデ 頸：ナデ 胴：ナデ	二枚貝条痕のちナ デ	
110	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 頸部	-/-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ	ナデ	
111	T 10 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 2類	口縁部～ 頸部	-/-	口：二枚貝条痕 頸：ナデ	ナデ	
112	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 3類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ミガキ	
113	- / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G 3類	口縁部～ 頸部	-/-	口：巻貝条痕のち ナデ 頸：ナデ	巻貝条痕のちナデ	
114	T 3 ~ 4 / 4層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	深鉢G類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
115	T 5 ~ 8 / 5層 / 住 3	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	(25.0) / -	巻貝条痕のちナデ	口：ナデ 胴：二枚貝条痕・ 巻貝条痕	胴部内面の 条痕調整が 二種
116	T 9 / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	条痕のちナデ	条痕のちナデ	
117	T 9 / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
118	T 9 / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデか (摩滅)	
119	T 10 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
120	T 3 ~ 4 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	二枚貝条痕のちミ ガキ	ナデ	
121	T 5 ~ 8 / 5層 / 住 3	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	口：上部ナデ、下 部ケズリ 胴：ケズリ	ナデ	調整の境界 と器形の境 界が一致し ない
122	T 10 / 5層 / 溝	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	口：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
123	T 5 ~ 8 / 5層 / 住 3	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちナデ	ナデ	
124	- / 6層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里II～ III a式	深鉢H類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
125	- / 5層 ? /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	(28.0) / -	二枚貝条痕のちナ デ	二枚貝条痕	
126	T 3 ~ 4 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	(27.0) / -	口：ナデ 頸：巻貝条痕のち ナデ 胴：ナデ	ナデ	
127	T 10 / 5層 / 溝	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	(27.4) / -	巻貝条痕のちナデ	巻貝条痕のちナデ	
128	T 3 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	(35.0) / -	巻貝条痕のちナデ	ナデ	
129	T 3 ~ 4 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	(36.8) / -	上部ナデ、下部二 枚貝条痕	ナデ	
130	T 5 / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：上部巻貝条 痕、下部ナデ 胴：巻貝条痕	口頸：巻貝条痕の ちナデ 胴：ナデ	
131	T 5 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里I～ II式併行	深鉢I類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
132	- / 4層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちナデ	ナデ	
133	T 12 / 4層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
134	T 5～8 / 4層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデか (摩滅)	
135	T 3 / 5層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
136	T 9 / 4層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	条痕のちナデ	ナデ	
137	T 9 / 5層 / -	後期末葉～ 晚期初頭	滋賀里 I～ II式併行	深鉢 I類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	巻貝条痕	
138	T 10 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(14.8) / -	ミガキ	ミガキ	
139	T 9 / 5層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(14.0) / -	不明 (摩滅)	不明 (摩滅)	小形の深鉢
140	T 10 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(16.2) / -	口頸：二枚貝条痕 のちナデ 胴：ケズリ	ナデ	
141	T 1 / 5層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(21.0) / -	条痕のちミガキ	ナデ	
142	T 3 / - / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(20.4) / -	ケズリ	ナデ	
143	T 9 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(21.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
144	T 9 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(20.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
145	T 10 / 5層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(21.8) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	169 と同一 か
146	T 10 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(19.4) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリか	ナデ	
147	- / 5層 / P6	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(21.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	内面調整の 工具痕顕著
148	T 9 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(22.8) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
149	T 12 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(21.4) / -	口頸：ナデ 胴：二枚貝条痕	ナデ	
150	T 5 / 5層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(31.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリか (摩 滅)	ナデか (摩滅)	器面の摩滅 著しい
151	T 9 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(35.6) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
152	T 9 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(39.4) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
153	T 5～8 / 5層 / 住 3	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(30.0) / -	口頸：ケズリ 胴：ケズリ	ナデ	
154	T 5～8 / 5層 / 住 3	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(34.0) / -	ナデ	ナデ	頸胴部界に 弱い一条の ナデ
155	T 10 / 5層 / 溝	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(29.4) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
156	T 5～8 / 5層 / 住 3	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(32.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
157	T 12 / 4層 / -	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 頸部	(33.4) / -	ケズリ	ナデ	
158	- / 7層 / ピット	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(32.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ、一部 ミガキ	ナデ、一部ミガキ	
159	T 5～8 / 5層 / 住 3	晚期中葉	篠原式	深鉢 J類	口縁部～ 胴部	(33.0) / -	口頸：ナデ 胴：ケズリ	口頸：巻貝条痕の ちナデ 胴：ナデ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
160	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕	ナデ	
161	T 5～8 / 5層 / 住 2	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
162	T 12 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデか (摩滅)	ナデ	
163	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
164	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	頸胴部界に 弱い一条の ナデ
165	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部	-/-	ミガキ	ミガキ	波頂部に突 起文
166	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
167	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
168	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
169	T 9 / 5層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	144 と同一 個体か
170	T 2 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
171	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 頸部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
172	T 5～8 / 5層 / 住 2	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
173	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリか (摩 滅)	ナデ	
174	T 10 / 3層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
175	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：巻貝条痕の ちナデ 胴：ケズリ	ナデ	
176	T 5～8 / 5層 / 住 3	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリのちナ デ	ナデ	
177	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ケズリのち ナデ 胴：ケズリ	ナデ	波頂部に突 起文
178	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ケズリのち ミガキ 胴：ケズリ	ナデ	
179	T 5～8 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	口端 D 字刻 み
180	T 16 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ケズリ	ナデ	
181	T 12 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 頸部	-/-	二枚貝条痕	二枚貝条痕のちナ デ	口端 0 字刻 み
182	T 3～4 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 J 類	口縁部～ 頸部	-/-	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
183	T 9 / 7層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 K 類	口縁部～ 胴部	(39. 2) /-	ケズリ	ナデ	
184	T 10 / 5層 / 溝	晩期中葉	篠原式	深鉢 K 類	口縁部～ 胴部	(13. 2) /-	ケズリ	ナデ	
185	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	深鉢 K 類	口縁部～ 胴部	(17. 5) /-	ミガキ	ミガキ	口縁部に突 起文
186	T 10 / 5層 / 溝内	晩期中葉	篠原式	深鉢 K 類	口縁部～ 胴部	(16. 8) /-	ナデ	ナデ	輪積み痕顯 著、小形の もの

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
187	T 5 ~ 8 / 5 層 / 住3	晩期中葉	篠原式	深鉢K類	口縁部～ 胴部	-/-	ケズリ	ナデ	
188	T 5 ~ 8 / 5 層 / 住3	晩期中葉	篠原式	深鉢K類	口縁部～ 胴部	-/-	ケズリ	ナデ	
189	T 9 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	深鉢K類	口縁部～ 頸部	-/-	ケズリ	ナデ	
190	T 3 / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 1 類	口縁部～ 胴部	(37. 2) / -	条痕のちミガキ	ナデ	
191	T 5 / 4 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 1 類	口縁部～ 胴部	(37. 0) / -	ナデ	ナデ	
192	T 5 ~ 8 / 5 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	(28. 0) / -	口頸：ナデ 胴：ミガキ	ミガキ	
193	T 10 / 5 層 / ミゾ	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	口頸：ナデ 胴：ミガキ	ミガキ	
194	T 3 ~ 4 / 4 層 / -	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	(17. 0) / -	ミガキ	ミガキ	
195	-/-/-	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	(16. 8) / -	ミガキか (摩滅)	ミガキか (摩滅)	注記判読不可
196	T 3 / 4 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 1 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
197	T 9 / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
198	T 5 ~ 8 / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
199	T 5 ~ 8 / 4 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部	-/-	ナデ	ミガキ	
200	T 3 / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部	-/-	ミガキ	ミガキ	
201	-/-/-	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
202	T 4 / 4 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
203	T 3 / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	外面に赤色 顔料付着
204	T 5 ~ 8 / 5 層 / 住2	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキか (摩滅)	ミガキ	
205	T 9 / 5 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢A 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
206	T 3 ~ 4 / 4 層 / -	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	(15. 8) / -	ミガキか (摩滅)	ミガキ	
207	3段 / -/-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	(31. 2) / -	ミガキ	ミガキ	
208	T 3 / 4 層 / -	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	(30. 0) / -	ミガキか (摩滅)	ミガキか (摩滅)	
209	T 3 / 4 層 / -	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	(30. 2) / -	ミガキか (摩滅)	ミガキ	
210	T 5 / 5 層 / 住3	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	(31. 8) / -	ミガキ	ミガキ	
211	T 3 / -/-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
212	T 5 ~ 8 / 5 層 / -	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II ~ III a 式	浅鉢B類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	ナデ	
213	T 5 ~ 6 / 4 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢C類	口縁部～ 胴部	(35. 0) / -	ミガキ	ミガキ	
214	-/ 5 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢C類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
215	T 10 / 5 層 / ミゾ	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢C類	口縁部～ 胴部	-/-	ナデ	二枚貝条痕	
216	T 5 / 不明 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢C類	口縁部～ 胴部	-/-	不明 (摩滅)	ミガキか (摩滅)	外面に赤彩 か
217	T 3 / -/P7	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢A・B類	頸部～胴 部	-/-	ミガキ	ミガキ	ミガキの単 位が明瞭
218	T 10 / 4 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢A・B類	頸部～胴 部	-/-	ケズリのちミガキ	ミガキ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
219	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢D類	口縁部～ 胴部	(30.0) /-	ミガキ	口頸：ミガキ 胴：条痕	
220	T 5～8 / 5層 / 住 2	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
221	T 9 / 5層 /-	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキか (摩滅)	ミガキか (摩滅)	
222	T 10 / 5層 / 溝	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢D類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキか (摩滅)	ミガキ	
223	-/-/-	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢D類	胴部	-/-	ミガキか (摩滅)	ミガキ	
224	T 3～4 / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	口縁部～ 胴部	(23.6) /-	ナデ	ミガキ	
225	T 10 / - / ミゾ	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	胴部	-/-	ミガキ	巻貝条痕	
226	- / 5層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
227	-/-/-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	注記なし
228	BBF-11 / -/-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	沈線施文の のち三角形 刻込文を施 文
229	- / 4層 /-	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I～ II式	浅鉢E類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	内面に赤色 顔料付着
230	T 5 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	浅鉢K 3類	口縁部～ 胴部	(22.8) /-	ミガキ	ミガキ	
231	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	浅鉢K 4類	口縁部～ 胴部	(24.2) /-	ミガキ	ミガキ	
232	T 5 / -/-	晩期前葉	滋賀里III a 式	浅鉢K 4類	口縁部～ 胴部	(27.0) /-	ヨコミガキ	ナデ	口縁部の沈 線は一部引 き直し
233	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 6類	口縁部～ 胴部	(24.2) /-	口頸：ミガキ 胴：ケズリ	ミガキ	
234	T 9 / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 頸部	(38.0) /-	ミガキ	ミガキ	
235	T 9 / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	(42.2) /-	ミガキ	ミガキ	
236	- / 5層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	(44.0) /-	巻貝条痕のちミガ キ	ミガキ	
237	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a 式	浅鉢K 3類	口縁部～ 胴部	(38.2) /-	巻貝条痕のちミガ キ	ミガキ	
238	T 5～8 / 5層 / 住 2	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 5類	口縁部～ 頸部	(34.0) /-	ミガキ	ミガキ	
239	F-11, 89-F-13 / -/-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 6類	口縁部～ 胴部	(35.0) /-	ミガキ	ミガキ	外面のミガ キはやや幅 広い単位
240	T 12 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 6類	口縁部～ 胴部	(39.0) /-	ミガキ	ミガキ	
241	T 3～4 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
242	T 12 / -/-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
243	T 10 / 5層 / ミゾ	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
244	T 5～8 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
245	T 10 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 a類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
246	T 3 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
247	T 12 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	滋賀里 II～ III a式	浅鉢K 2 b類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
248	-/-/-	晩期初頭～前葉	滋賀里II～III a式	浅鉢K 2類	口縁部～頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	口縁部に鋸歯状文
249	T 7 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 3類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
250	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 3類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
251	T 9 /-/-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 3類	口縁部～頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
252	-/-/-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
253	T 3 / 4層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
254	T 3～4 / 4層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
255	T 9 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
256	T 5～8 / 5層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
257	T 9 / 4層 /-	晩期前葉	滋賀里III a式	浅鉢K 4類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
258	T 3～4 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 5類	口縁部～胴部	-/-	ナデ	ミガキ	内面に赤色 顔料付着
259	BBF 3～4 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 5類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
260	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 5類	口縁部～胴部	-/-	二枚貝条痕のちミ ガキ	ミガキ	
261	T 3～4 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 6類	口縁部～胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
262	T 4 / 3層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 6類	口縁部～胴部	-/-	ナデ	ナデ	補修孔あり
263	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部～ (31.6) /-	二枚貝条痕のちミ ガキ	ミガキ	263・264 は 同一個体か	
264	T 10 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部～ (31.6) /-	二枚貝条痕のちミ ガキ	ミガキ	263・264 は 同一個体か	
265	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部～ (47.0) /-	口頸：二枚貝条痕 のちミガキ 胴：ケズリか	ミガキか（摩滅）	口胴部界に 接合痕、幅 広沈線	
266	T 5～8 /-/-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部突 起	-/-	ミガキ	ミガキ	
267	T 12 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部突 起	-/-	ミガキ	ミガキ	
268	T 5～8 / 4層 /-	晩期中葉	篠原式	浅鉢K 7類	口縁部突 起	-/-	ミガキ	ミガキ	
269	T 10 / 4層 /-	晩期中葉～ 後葉	篠原式～滋 賀里IV式	浅鉢K 8類	口縁部～ 頸部	(46.0) /-	ミガキ	ミガキ	
270	T 3～4 / 4層 /-	晩期中葉～ 後葉	篠原式～滋 賀里IV式	浅鉢K 8類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
271	T 10 / 4層 /-	晩期中葉～ 後葉	篠原式～滋 賀里IV式	浅鉢K 8類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
272	T 10 / 3層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 9類	口縁部	-/-	ミガキ	ミガキ	
273	T 9 / 4層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 9類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
274	T 5～8 / 4層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 9類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
275	T 9 / 4層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 10類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
276	T 10 / 5層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 10類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	275・276 は 同一個体か
277	T 10 / 4層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 10類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	275・276 は 同一個体か
278	T 9 / 4層 /-	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 10類	口縁部～ 頸部	(17.8) /-	ミガキ	ミガキ	

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
279	T 5 ~ 8 / 4 層 / -	晩期後葉	滋賀里IV式	浅鉢K 10 類	口縁部～ 頸部	-/-	ミガキ	ミガキ	
280	T 10 / 5 層 / 溝	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢G 類	口縁部～ 胴部	(17. 2) / -	ナデ	ナデ	
281	T 3 / 4 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢G 類	口縁部～ 胴部	(14. 8) / -	巻貝条痕のちナデ	ナデ	口縁外面わ ずかに煤付 着
282	T 9 / 4 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢G 類	口縁部～ 胴部	(27. 8) / -	ナデ	ナデ	
283	- / 5 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢G 類	口縁部～ 胴部	(18. 4) / -	ミガキ	ミガキ	
284	T 9 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢J 類	口縁部～ 胴部	(24. 8) / -	ナデ	ナデ	
285	T 7 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢J 類	口縁部～ 胴部	(30. 0) / -	ミガキ	ミガキ	
286	T 10 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	(22. 4) / -	ミガキ	口頸：ミガキ 胴：ナデ	
287	T 10 / 5 層 / ミゾ	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	(24. 4) / -	ミガキ	ミガキか (摩滅)	
288	T 10 / 5 層 / ミゾ	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	(27. 4) / -	ミガキ	ミガキ	
289	T 5 ~ 8 / 住3 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	(26. 6) / -	ミガキ	ミガキ	
290	T 5 ~ 8 / 5 層 / 住 3	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	(13. 6) / -	ミガキ	ミガキ	
291	T 12 / 6 層 / -	晩期前葉～ 中葉	滋賀里III a 式～篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
292	T 9 / 4 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキか (摩滅)	ミガキか (摩滅)	
293	T 9 / 4 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢L 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
294	T 9 / 4 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 1 類	口縁部～ 胴部	(27. 0) / -	ミガキ	ミガキ	内面に赤色 顔料
295	T 9 / 4 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 1 類	口縁部～ 胴部	(26. 0) / -	ナデ	ナデ	
296	T 9 / 5 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 1 類	口縁部～ 胴部	(36. 0) / -	ケズリのち疎なタ テミガキ	ナデ	
297	- / 5 層 / -	晩期初頭	滋賀里II式	浅鉢N 2 類	口縁部～ 底部	15. 7 / 5. 0	ナデ	ナデ	
298	BBF-2 / - / 断面トレ溝 内 表■■■■■	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 2 類	口縁部～ 底部	15. 4 / 3. 6	ナデ	ナデ	
299	T 3 / 5 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 2 類	口縁部～ 胴部	(23. 8) / -	二枚貝条痕のちミ ガキ	ミガキ	
300	T 9 / 4 層 / -	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちミガ キ	巻貝条痕のちミガ キ	
301	T 5 ~ 8 / 5 層 / 住 2	後期後葉～ 晩期前葉	-	浅鉢N 2 類	口縁部～ 胴部	-/-	巻貝条痕のちナデ	ナデ	
302	T 9 / 4 層 / -	後期末葉～ 晩期初頭	滋賀里 I ~ II式	浅鉢N 2 類	口縁部	-/-	巻貝条痕	巻貝条痕	口縁端部に V字刻み
303	T 9 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢N 3 類	口縁部～ 胴部	(32. 0) / -	ミガキ	ミガキ	
304	2 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢N 3 類	口縁部～ 胴部	(34. 0) / -	ミガキ	ミガキ	
305	T 5 ~ 8 / 5 層 / -	晩期中葉	篠原式	浅鉢N 3 類	口縁部～ 胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
306	-/-/-	晩期前半	東日本系か 深鉢		口縁部～ 頸部	-/-	ナデか (摩滅)	ミガキ	注記なし
307	T 5 ~ 8 / 3 層 / -	晩期前葉	大洞BC式 深鉢		口縁部～ 胴部	(7. 6) / -	ナデか (摩滅)	ミガキ	小型の深鉢
308	T 12 / 4 層 / -	晩期前葉	大洞BC式 壺		胴部	-/-	ミガキ	ミガキ	
309	T 5 / 5 層 / 住 2	晩期中葉	大洞C 1 式 深鉢か		口縁部	-/-	ミガキ	ミガキ	小型の深鉢 または浅鉢

報告番号	調査区 / 層位 / 遺構 (注記ママ)	時期	型式	器種・分類	部位	口径 / 底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
310	T 5 / 5層 / 住3 中葉	東日本系か	深鉢	頸部～胴部	-/-	頸：ナデ 胴：ケズリのちナデ	ナデ		無文、小形の深鉢
311	T 10 / 5層 / ミゾ	晩期前半	東日本系	平底	底部	-/5.4	ナデ	ナデ	LR 繩文
312	- / 5層か /-	晩期初頭	安行3a式 /大洞B式	注口土器	口縁部～ 胴部	(9.6) /-	ミガキか (摩滅)	ナデ	注記なし
313	T 5～8 / 5層 / 住3	晩期中葉	谷尻式	深鉢	頸部	-/-	ナデ	ナデ	
314	T 9 / 4層 /-	晩期中葉	谷尻式	深鉢	頸部～胴部	-/-	頸：ナデ 胴：ケズリのちナデ	ナデ	
315	T 4 / 3層 /-	晩期中葉	谷尻式	-	胴部	-/-	条痕	ナデ	
316	T 10 / 5層 / 溝内	晩期初頭～ 前葉	-	凹底	底部	-/4.7	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
317	T 9 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	-	凹底	底部	-/6.0	ナデ	ナデ	
318	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期初頭～ 前葉	-	凹底	底部	-/5.0	ケズリ	ナデ	
319	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期初頭～ 前葉	-	凹底	底部	-/5.5	ナデ	ナデ	
320	T 5～8 / 4層 /-	晩期初頭～ 前葉	-	凹底	底部	-/5.0	ケズリ	ナデ	弱い凹底
321	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/4.0	二枚貝条痕	ナデ	
322	T 5～8 / 5層 / 住3	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/5.0	ケズリ	ナデ	
323	T 10 / 4層 /-	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/5.5	ケズリ	ナデ	
324	T 5～8 / 5層 / 住3	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/6.0	ナデ	ナデ	
325	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/5.0	ナデ	ナデ	
326	T 9 / 5層 /-	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/4.5	二枚貝条痕	ナデ	
327	T 10 / 5層 / 溝内	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/6.0	ナデ	ナデ	
328	T 5～8 / 5層 / 住3	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/3.5	ナデ	ナデ	
329	T 9 / 5層 /-	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/6.0	ナデ？	ナデ	
330	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/6.5	ナデ	ナデ	
331	T 5～8 / 5層 / 住3	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/4.3	ケズリ	ナデ	
332	T 9 / 5層 /-	晩期前葉～ 中葉	-	二段凹底	底部	-/7.2	二枚貝条痕	ナデ	
333	T 9 / 5層 /-	晩期前半か	-	平底	底部	-/5.0	二枚貝条痕	ナデ	
334	T 5～8 / 5層 / 住2	晩期前半か	-	平底	底部	-/5.5	ナデ	ナデ	
335	T 5～8 / 5層 / 住2	後期前葉か	-	平底	底部	-/8.0	ナデ	ナデ	
336	T 4 / 4層 /-	晩期前半か	-	丸平底	底部	-/7.5	ナデ	ナデ	
337	T 4 / 4層 /-	晩期中葉か	-	丸底	底部	-/6.0	ナデ	ナデ	

## 報告書抄録(その 1)

ふりがな	ひがしおおさかしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう 一れいわごねんどー
書名	東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報 一令和5年度一
副書名	
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	西山集・小泉翔太
所在地	〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号
発行年月日	2024年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	市町村 コード	遺跡 番号	調査期間	調査 面積	調査原因
ばばがわいせき 馬場川遺跡	東大阪市横小路町三 丁目 450 番 2 の一部	27227	89	令和4年11月7日	2.25 m <sup>2</sup>	個人住宅建設
ばばがわいせき 馬場川遺跡	東大阪市横小路町四 丁目	27227	89	昭和44年7月10日～ 昭和44年9月18日	1,000 m <sup>2</sup>	工場建設

## 報告書抄録(その 2)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬場川遺跡 (確認調査)	集落跡	縄文時代	(遺物包含層)	縄文土器・ 石器・動物 遺体	
馬場川遺跡	集落跡	縄文時代	溝・ピット	縄文土器・ 土製品	F 地点

### 東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報 -令和5年度-

発行日 令和6年3月31日  
編集・発行 東大阪市  
〒577-8521  
東大阪市荒本北一丁目1番1号  
Tel 06-4309-3283  
印刷所 有限会社長谷川印刷